Ⅱ　市のすう勢等

１　市域の地勢等

２　人口の推移等
（１）日本の総人口
（２）市の人口の推移（人口構造等）
（３）人口の見通し
（４）年齢別の人口見通し
（５）３区分別の人口推移及び推計

３　地区別の人口の推移と将来の人口
（１）６地区単位による地区別人口推計
（２）小学校単位による地区別人口推計
（３）中学校単位による地区別人口推計

参考　多摩地域の人口の状況
（１）多摩２６市の人口
（２）多摩２６市の世帯数
（３）多摩２６市の３区分人口

Ⅱ　市のすう勢等

１　市域の地勢等

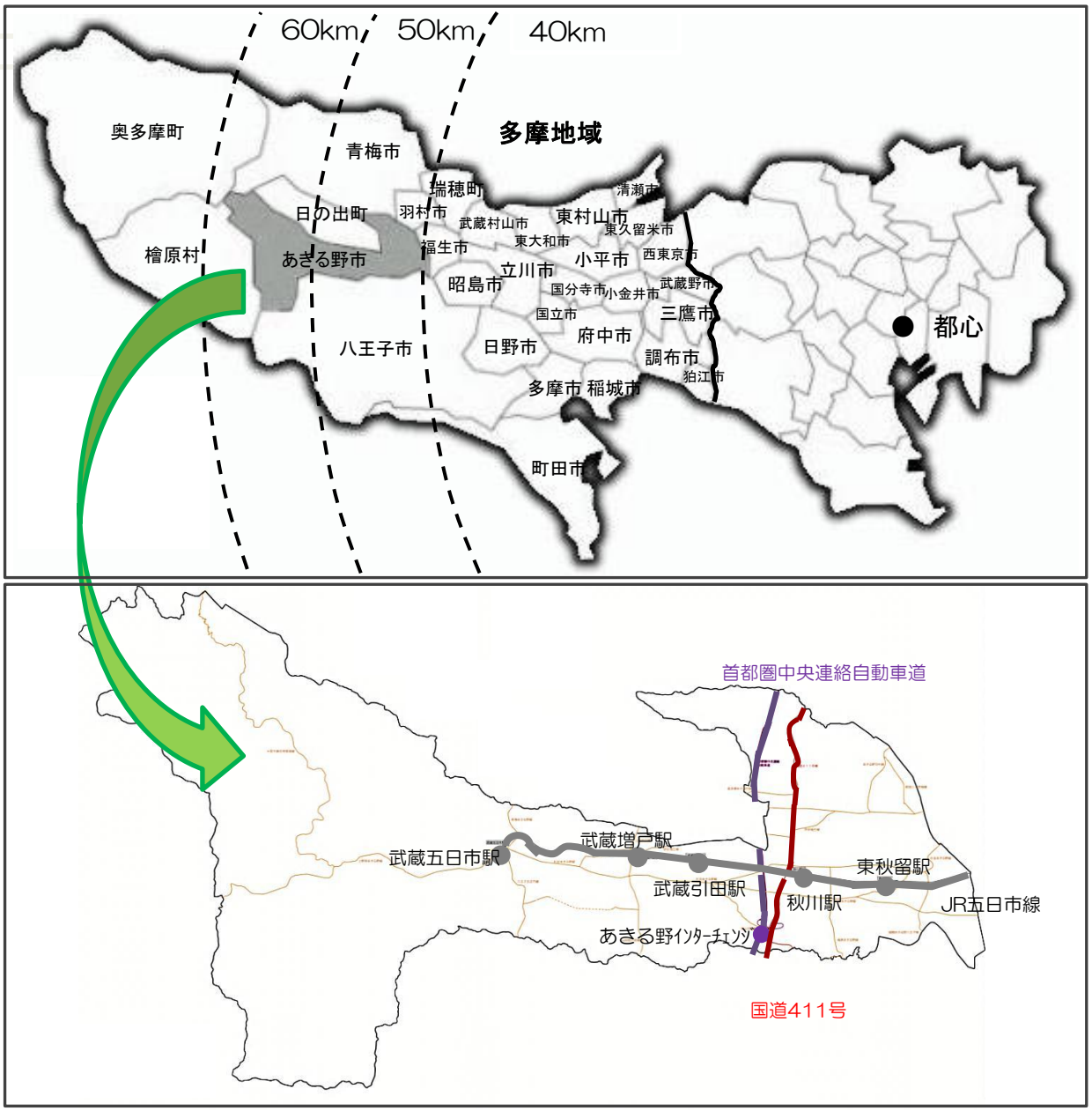
本市は、平成７年に旧秋川市と旧五日市町が合併し、市制施行から２０年となります。

市域は、都心から４０～６０km圏の多摩の西部に位置し、東西18.0km、南北12.7km、行政面積は73.47km²となっており、多摩２６市において、隣接する八王子市、青梅市に次いで３番目の規模を有しています。

市の土地利用の特性は、秋川と平井川が東西に流れ、比較的緩やかな秋川丘陵、草花丘陵に囲まれる台地部と行政面積の約６割を占める森林が広がる山間部から構成され、台地部を中心に農地と低層住宅地が共存した市街地が集落ごとに広範囲にわたって形成しており、都内でも数少ない自然豊かな田園風景となっています。

また、住民の日常生活を支える中心市街地は、台地部のほぼ中央を東西方向に横断するJR五日市線の秋川駅周辺に形成されている一方で、台地部を縦横断する幹線道路沿道を中心に日常の生活機能を支える沿道型のサービス施設が立地しているなど、地域単位での機能分散型の市街地が形成されています。

【図-4　本市の位置及び主要な交通網】



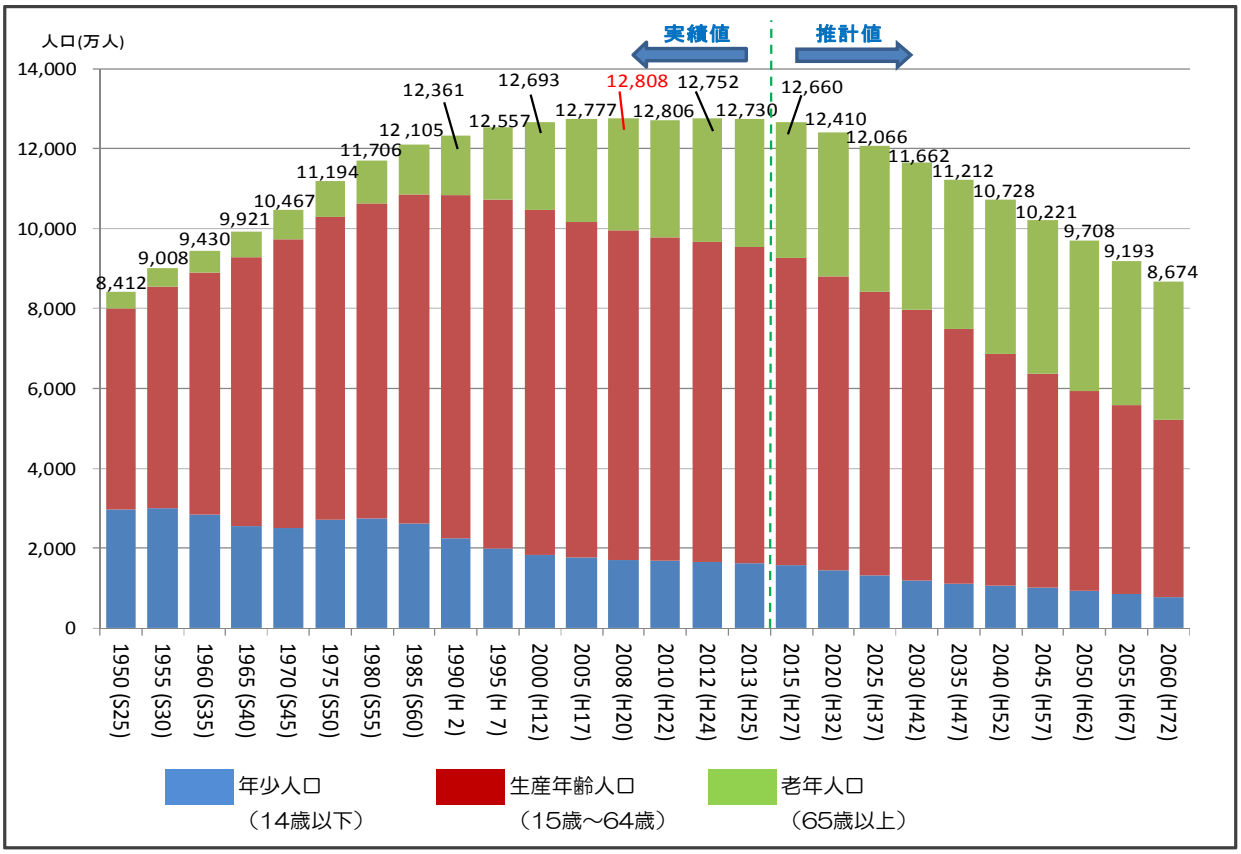
２　人口の推移等

（１）日本の総人口

日本の人口は、高度経済成長期以降、一貫して増加してきましたが、平成10年頃から人口の増加は鈍化し、平成20年から減少に転じています。この要因は、出生率の低下や出生数の減少であることから、今までに経験のない人口減少時代が到来します。

また、人口減少の到来とともに、少子高齢化や生産年齢人口の減少など、人口構造も併せて変化していきます。

【図-5　日本の総人口】



資料：内閣府「日本推計人口」及び総務省統計局「人口推計」

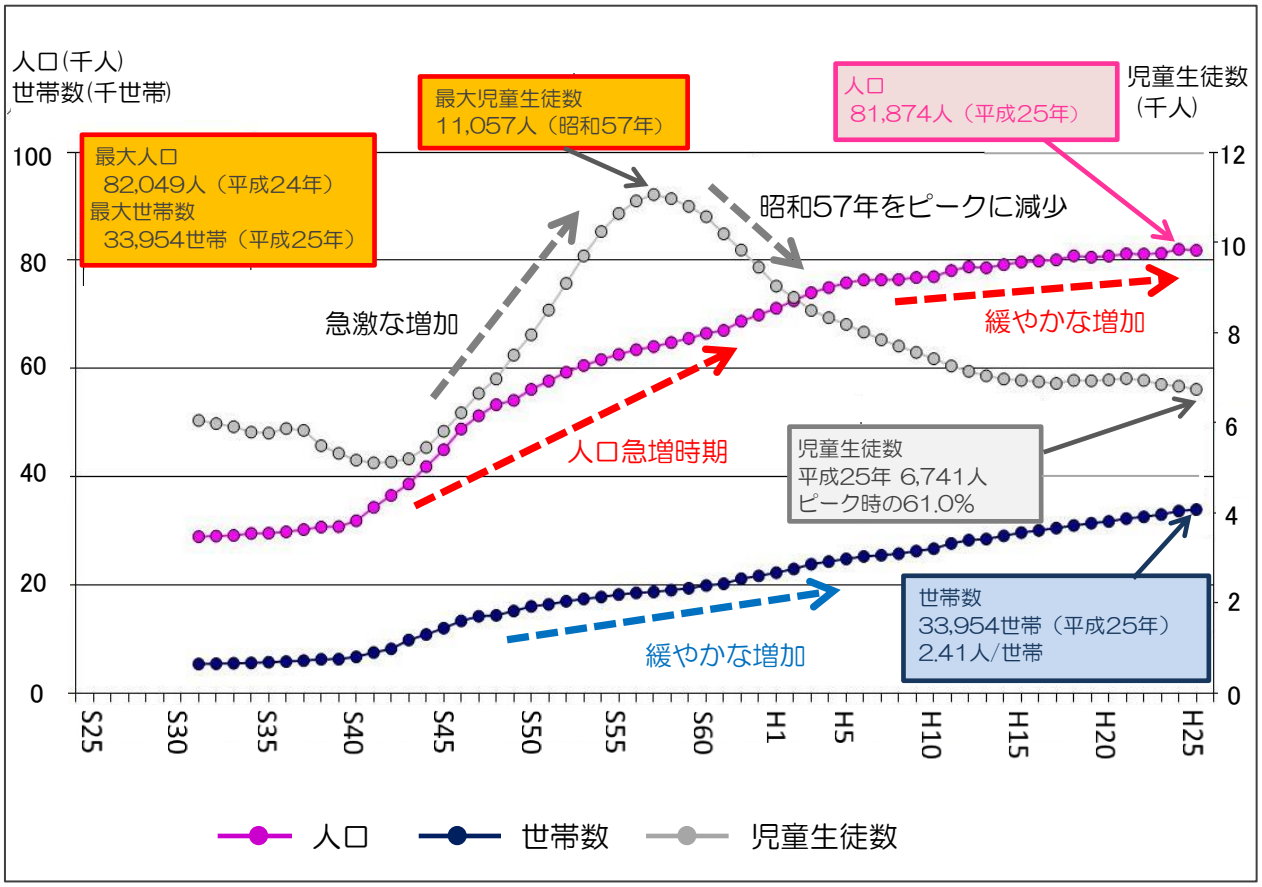
（２）市の人口の推移（人口構造等）

本市の人口は、昭和40年代から昭和50年代にかけて急増し、平成24年の約８万２千人をピークに、それ以降緩やかに減少に転じています。この傾向は、前述の日本の総人口の減少から４年遅れていますが、東京都の多摩部の人口は、平成27年をピークに減少に転じるものと推計しており、本市はこれよりも３年早く減少に転じています。

一方で、世帯数は増加していますが、世帯当たりの人員は、昭和50年の３.５人から平成25年には２.４人に減少し、今後も少子高齢化の進行により、世帯数の増加は続いていくものと考えられます。

また、児童・生徒数は、昭和57年の１１,０５７人をピークに減少に転じ、直近10か年ではおおむね６千人から７千人の水準で推移していますが、少子化が急激に進行している状況から、今後はさらに減少していくものと予測しています。

【図-6　市の人口等の推移】

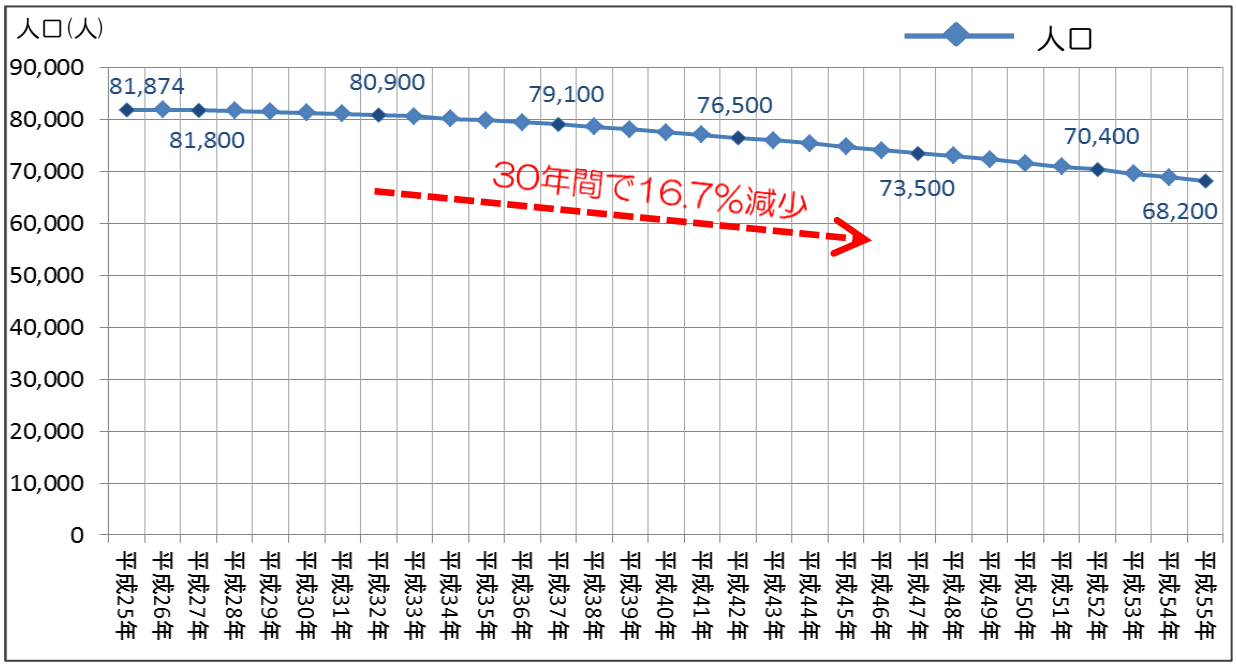


（3）人口の見通し

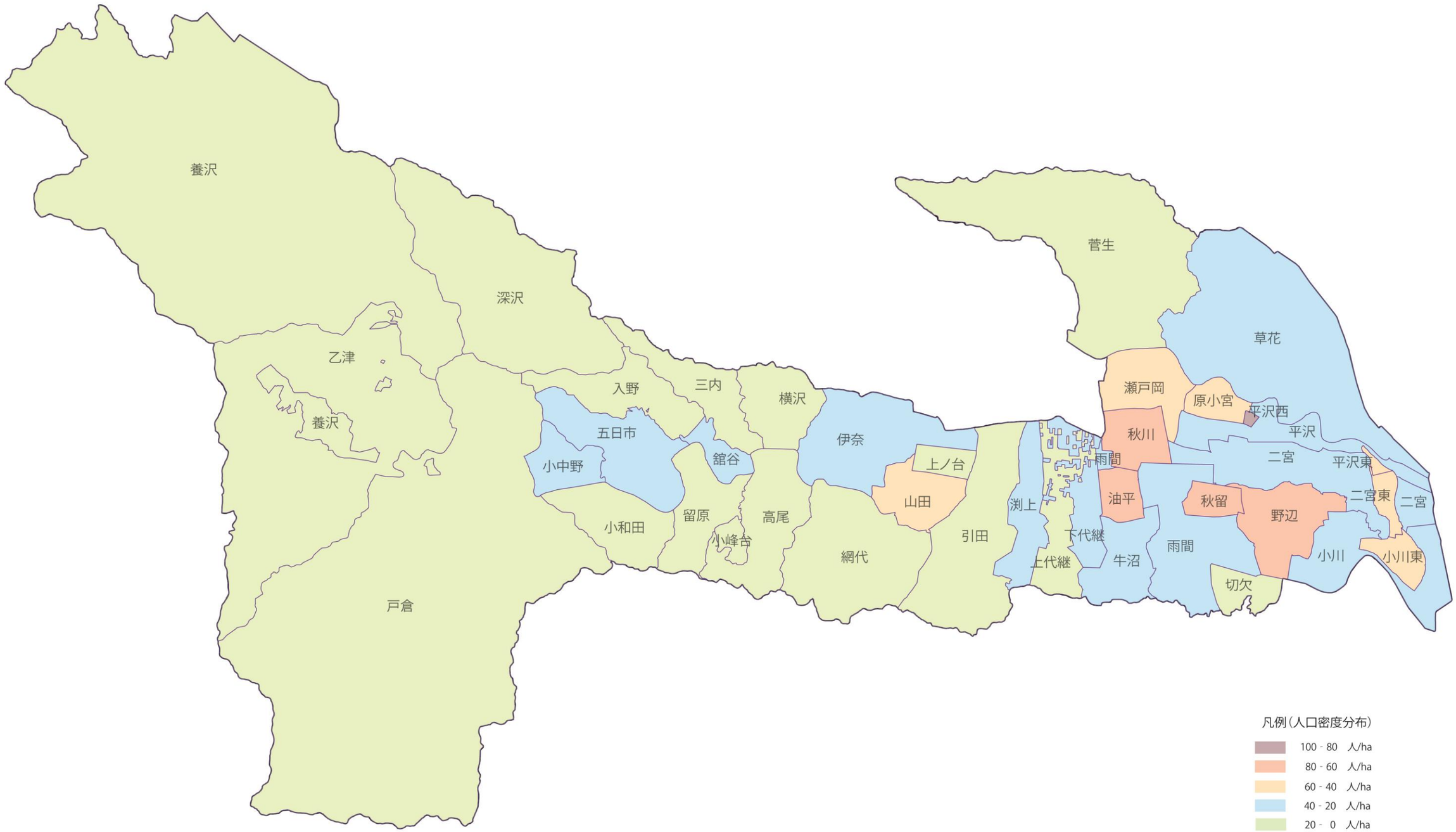
市全体の人口は年々減少し、平成25年の81,874人から30年後の平成55年には68,200人と推計し、30年間で16.7%減少すると予測しています。

また、平成２５年の人口及び平成５５年の人口推計による字別の人口密度を比較すると、古くから市街地を形成してきた東秋留地区や五日市地区で密度が大きく低下するおそれがあります。（図-8、図-9）

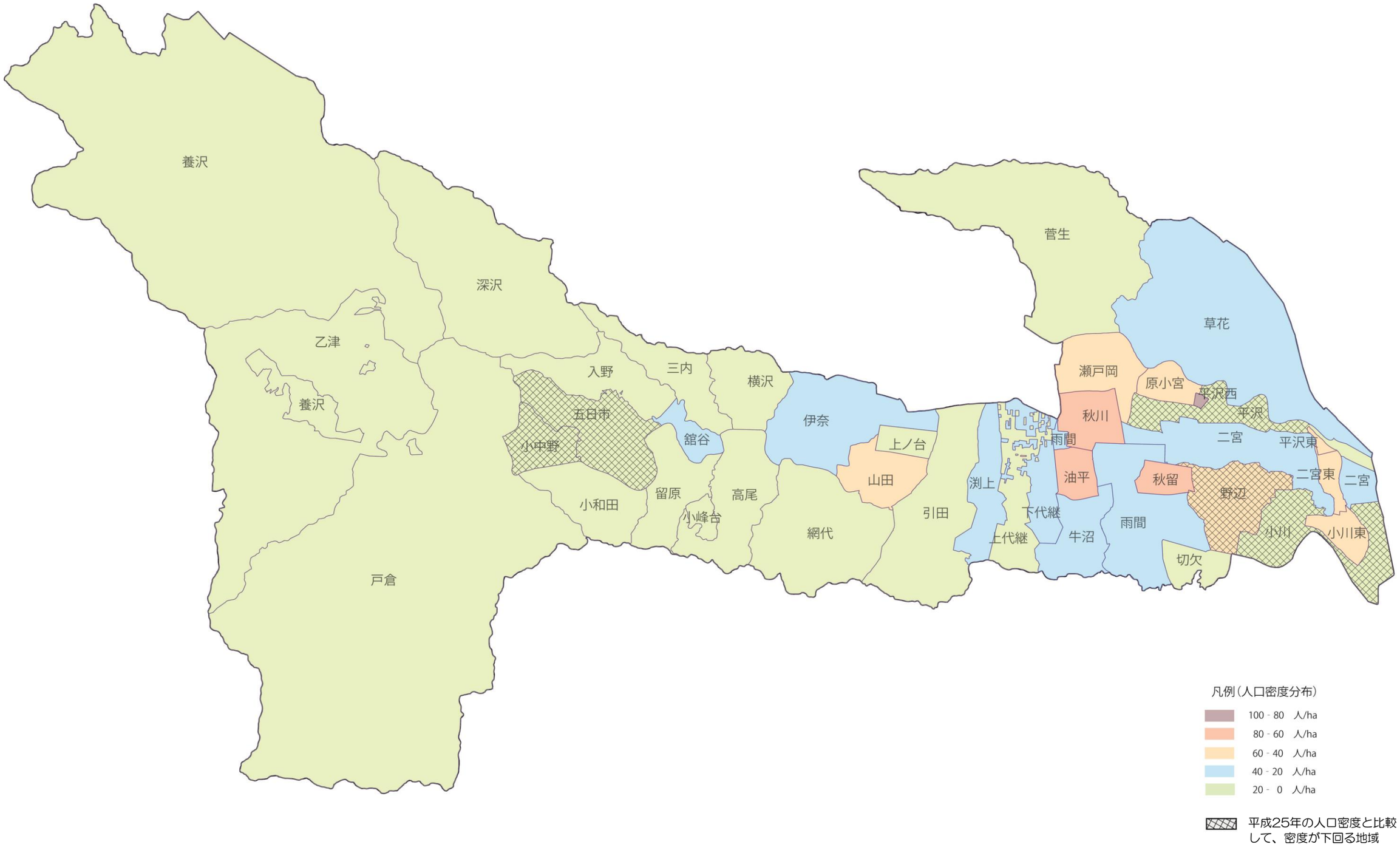
【図-7　あきる野市の人口推計（平成25年-平成55年）】



【図-8　あきる野市の字別人口密度（平成25年）】



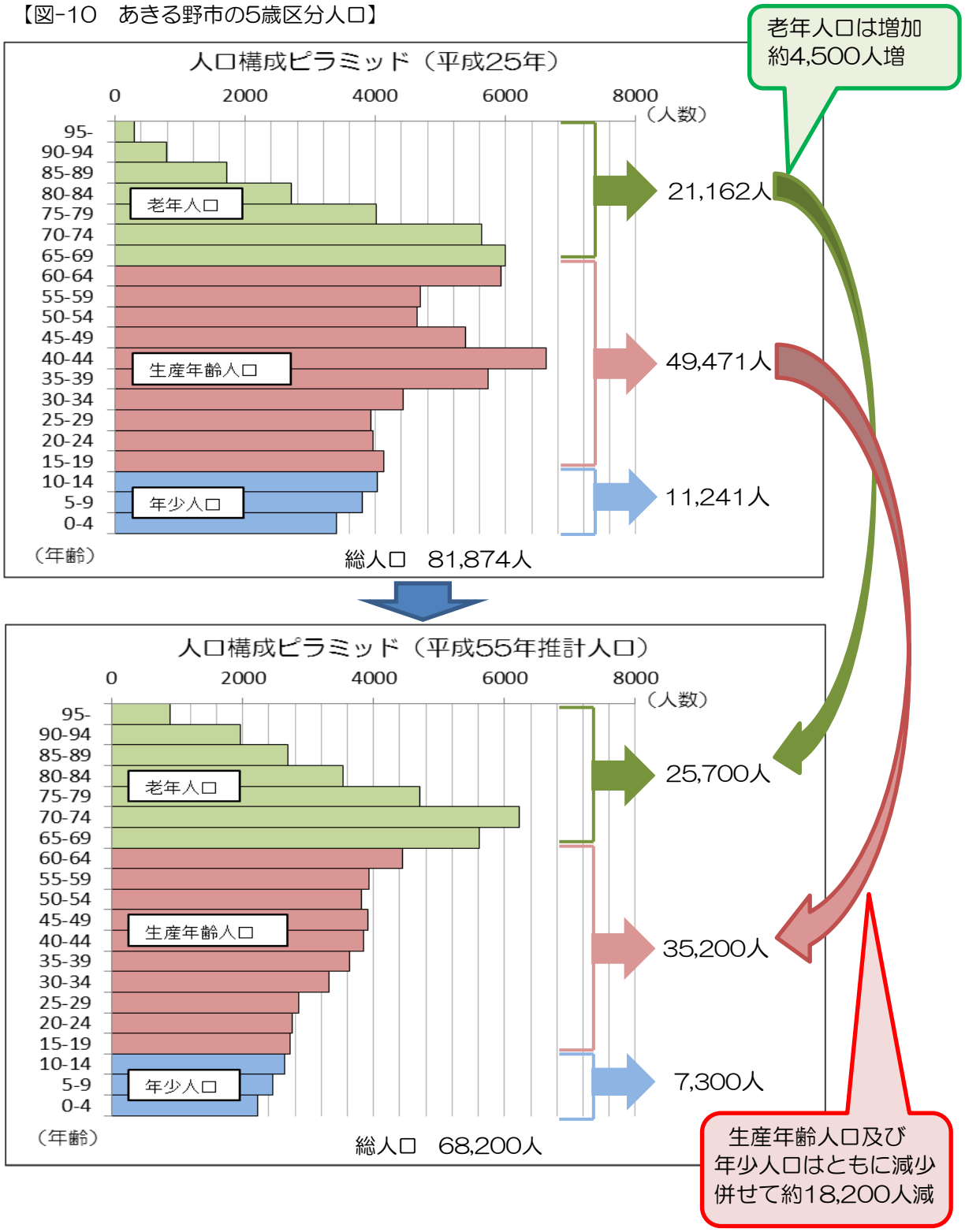
【図-9　あきる野市の字別人口密度推計（平成55年）】



（4）年齢別の人口見通し

平成55年の５歳区分による年齢別の人口推計では、年少人口及び生産年齢人口ともに減少する一方で、老年人口は増加するものと予測しています。また、高齢者が市民の３人に１人になるなど、人口の構造が大きく変化し、少子高齢化が急速に進行していきます。

【図-10　あきる野市の5歳区分人口】



（５）3区分別の人口推移及び推計

平成５５年の人口推計では、昭和６０年の人口の水準まで減少するものと予測していますが、人口構造は、当時と比較して大きく異なってきます。

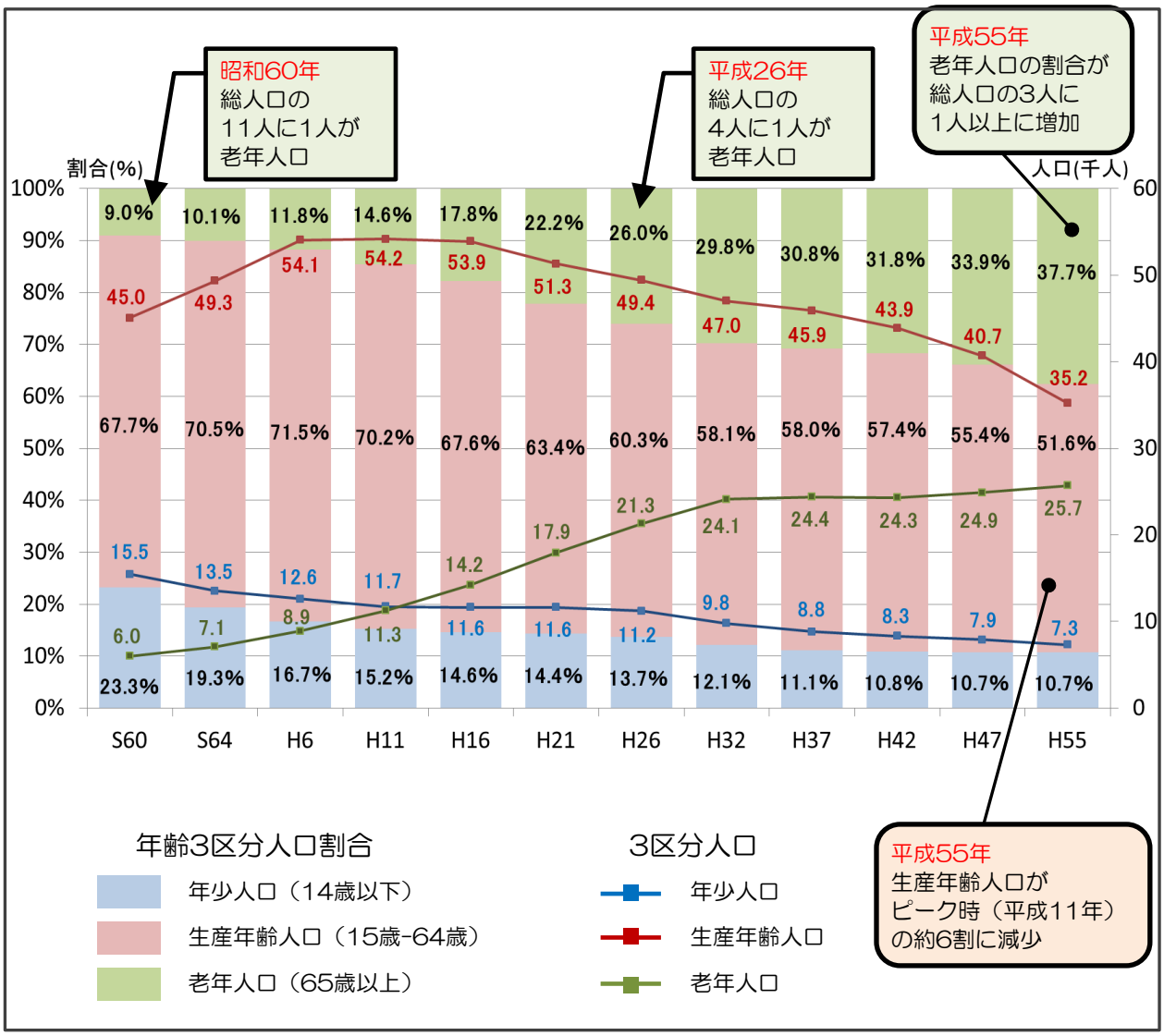
昭和６０年の６千人であった老年人口は、平成２６年の時点で２１．３千人に、平成５５年には２５．７千人まで増加するものと予測しています。

生産年齢人口は、平成１１年の５４．２千人をピークに減少に転じており、平成５５年には約３５％減の３５．２千人になると予測しています。また、老年人口１人に対する生産年齢人口は、昭和６０年では７．５人でしたが、平成５５年の推計では１．４人となっており、社会保障のほか様々な負担が将来の生産年齢人口に重くのしかかることのないようにすることが必要です。

年少人口は、年々減少傾向にあり、平成５５年の推計では、昭和６０年の１５．５千人に対して、およそ半数の７．３千人にまで減少するものと予測しています。

以上のように、少子高齢化による人口構造の変化により、市民の平均年齢は、平成８年の３９歳から平成５５年には、５１歳に上昇するなど、人口構造に見合ったまちづくりへの対応が必要になってきます。

【図-11　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（昭和60年～平成55年）】



３　地区別の人口の推移と将来の人口

本市は、多摩２６市で、八王子市、青梅市に次いで３番目の行政面積の規模を有しており、これは、隣接する福生市から青梅線及び中央線で連続する昭島市、立川市、国立市及び国分寺市の５市を超える面積で、地形的にもこの５市を覆うことができる規模です。一方で、この５市の人口の合計は、本市の６倍を超える約５４万３千人となっており、他市と比較して人口密度は低く、人口分布は、既存の集落を中心に広く点在しているのが、本市の人口特性となっています。

このことから、集落、小学校区及び中学校区単位での人口の推移や将来人口を推計し、人口の地域特性の分析を行います。

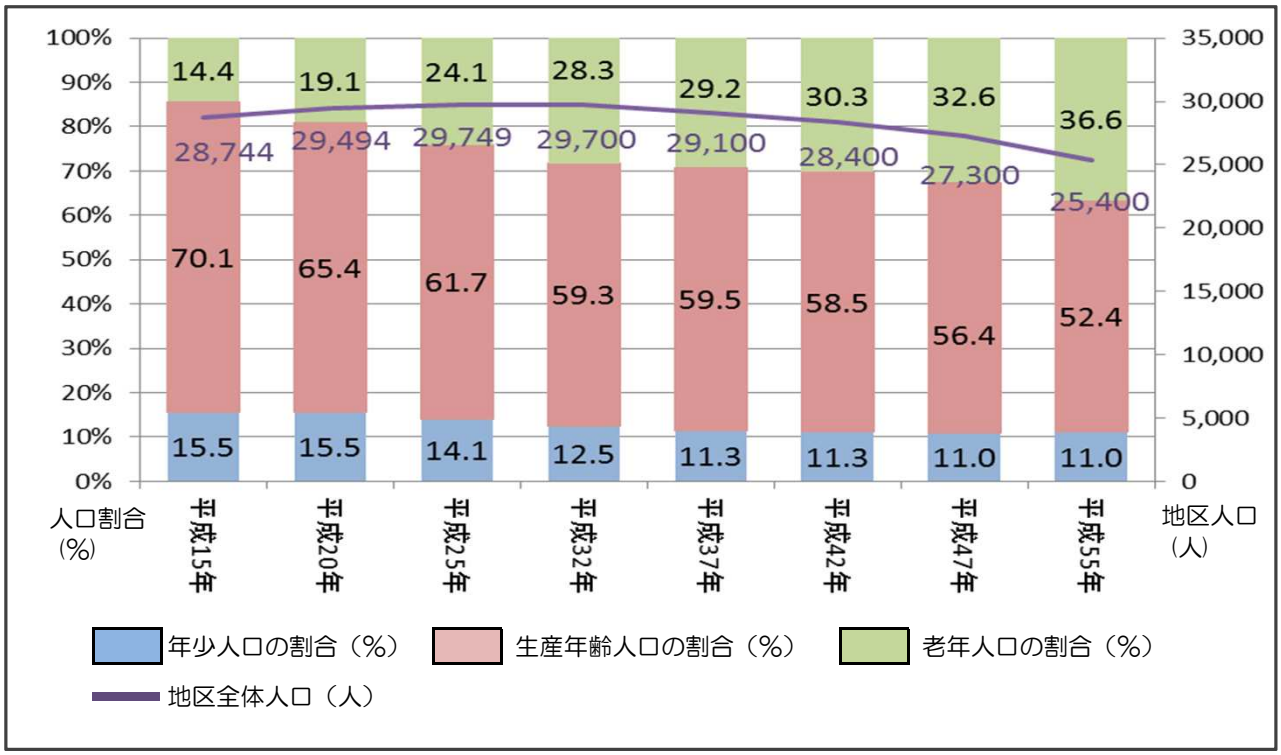
（１）６地区単位による地区別人口推計

東秋留、多西、西秋留、増戸、五日市及び戸倉・小宮地区の６地区の人口の推移では、戸倉・小宮地区の人口が年々減少している傾向にあり、各地区で超高齢化社会の指標である高齢化率が２０パーセントを超えています。

また、人口推計では、東秋留及び西秋留の２地区で平成32年までほぼ横ばいで推移しますが、他の４地区では減少に転じ、平成55年の予測では、各地区平均の人口はおよそ２１ポイント減少し、各地区の高齢化率は１０ポイント以上上昇する一方で、生産年齢人口はおよそ１０ポイント低下し、各地区で人口減少や少子高齢化が進行していきます。

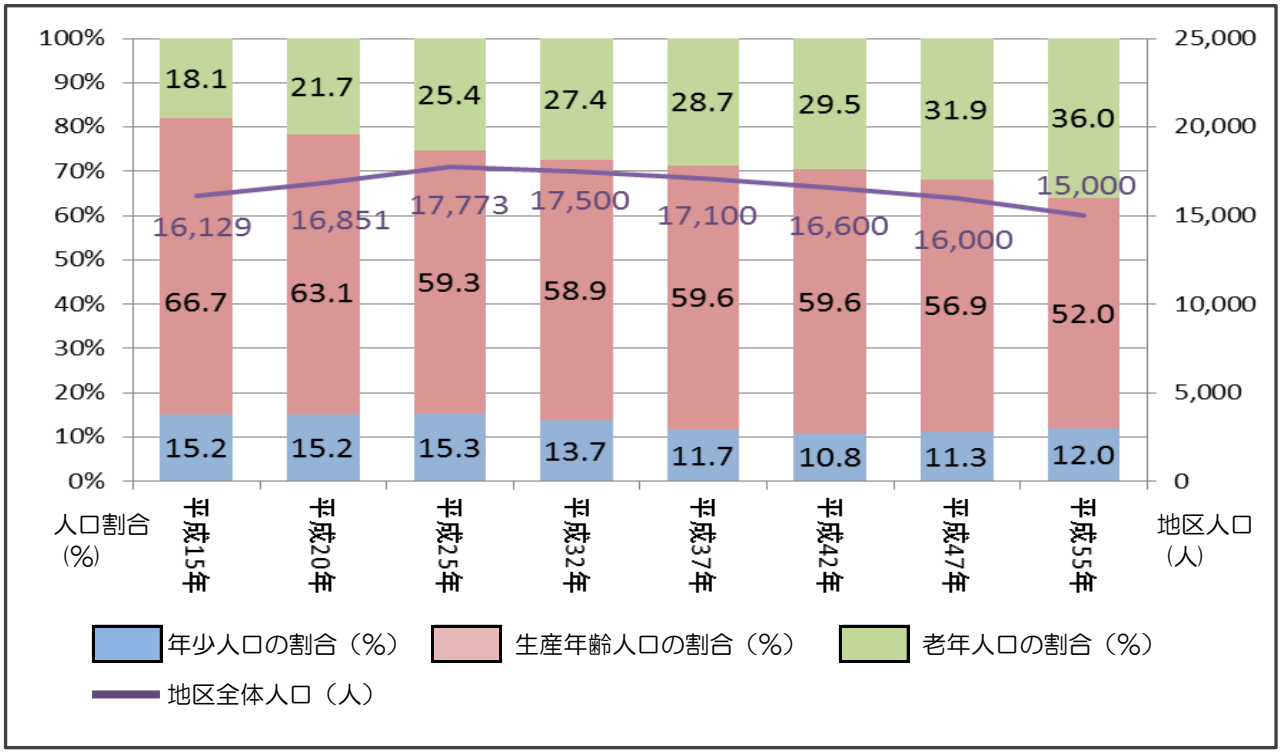
≪東秋留地区≫

【図-12　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（東秋留地区）】



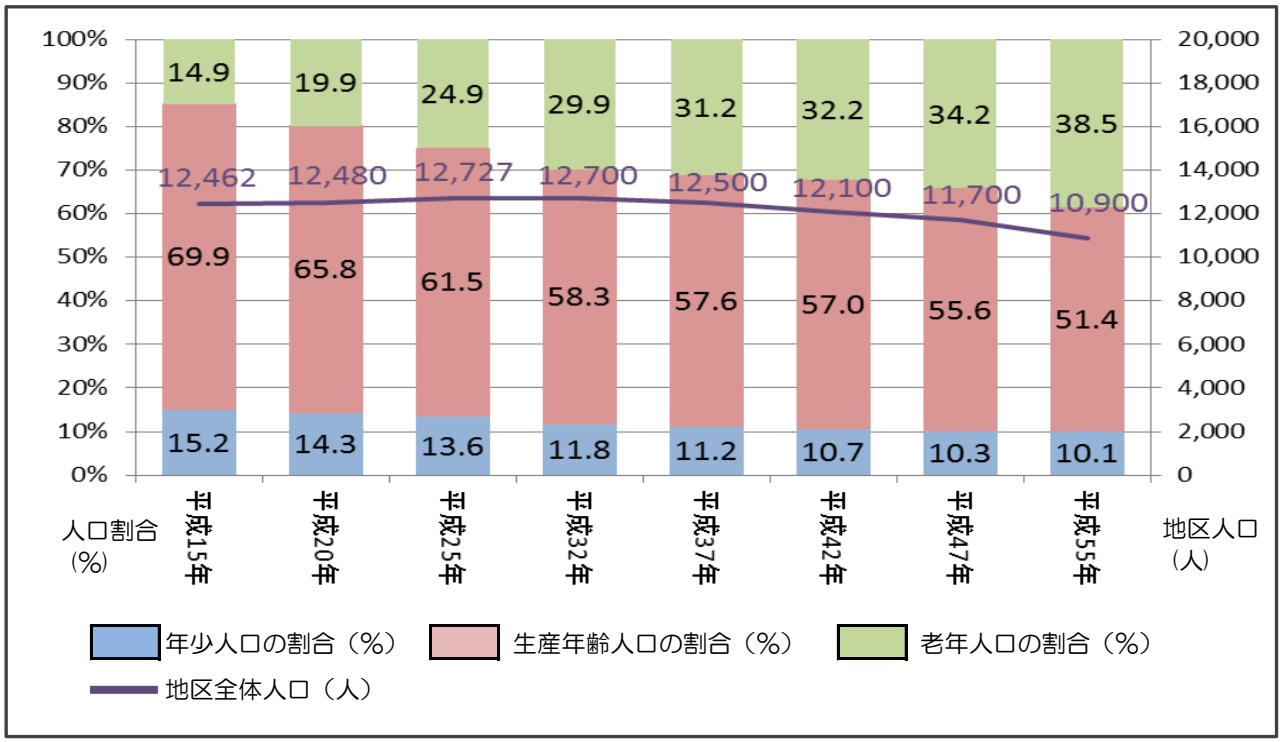
≪多西地区≫

【図-13　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（多西地区）】



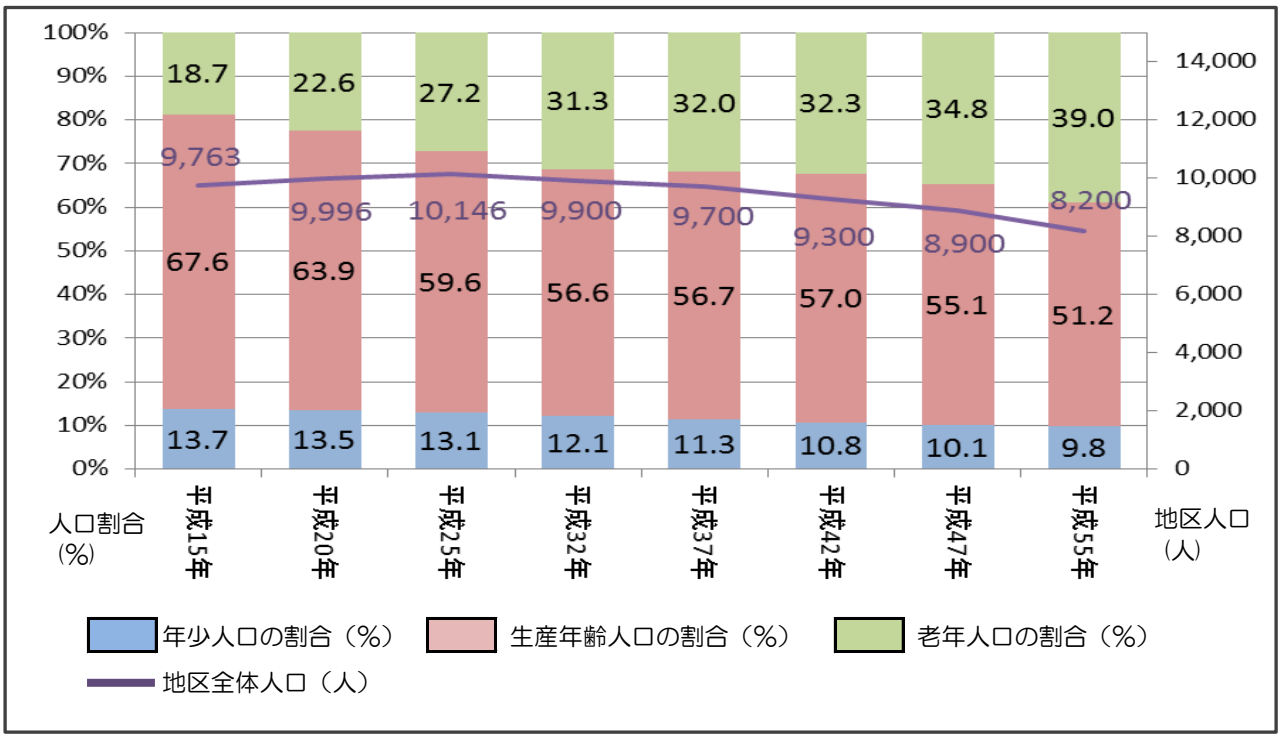
≪西秋留地区≫

【図-14　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（西秋留地区）】



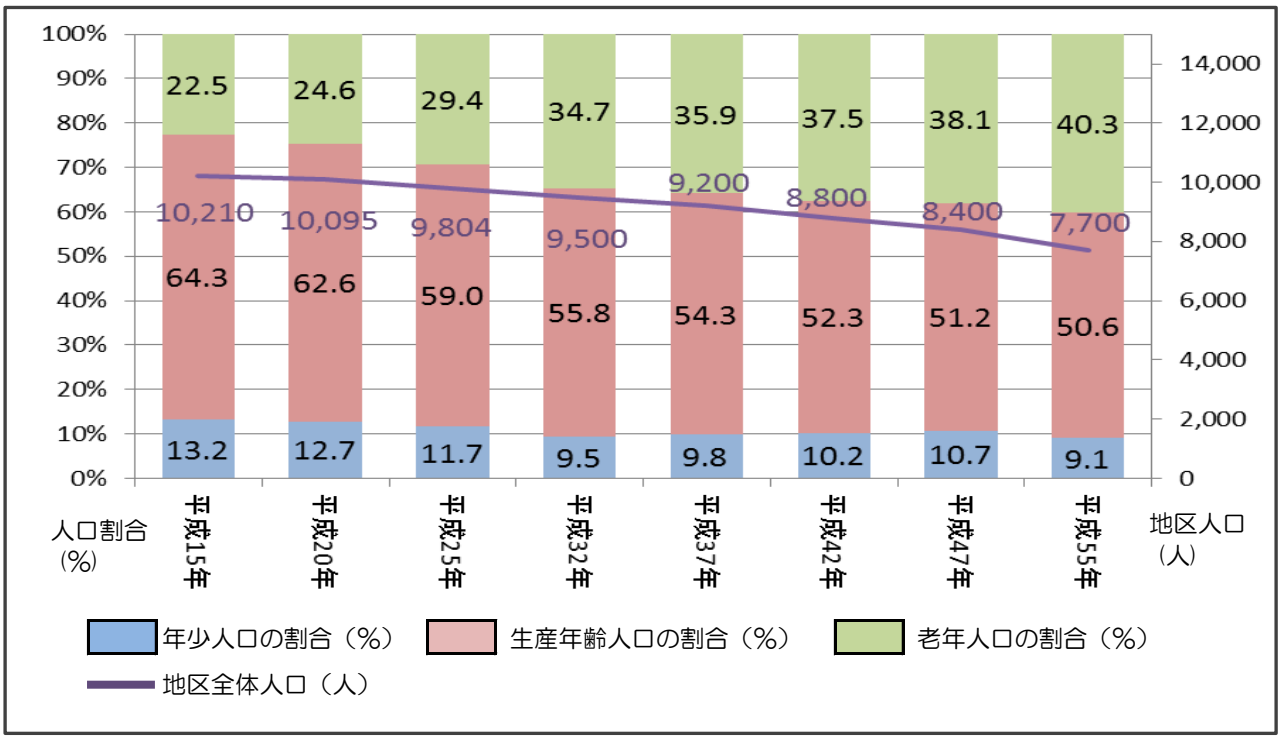
≪増戸地区≫

【図-15　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（増戸地区）】



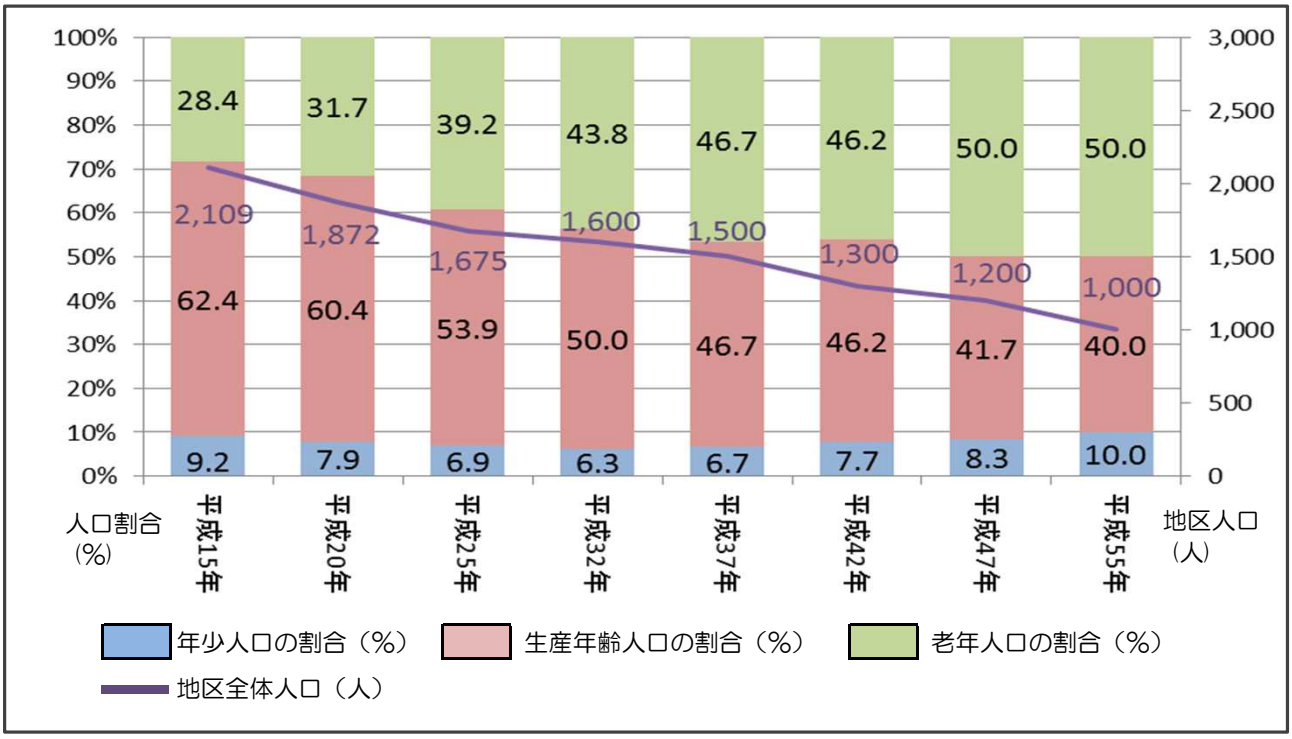
≪五日市地区≫

【図-16　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（五日市地区）】



≪戸倉・小宮地区≫

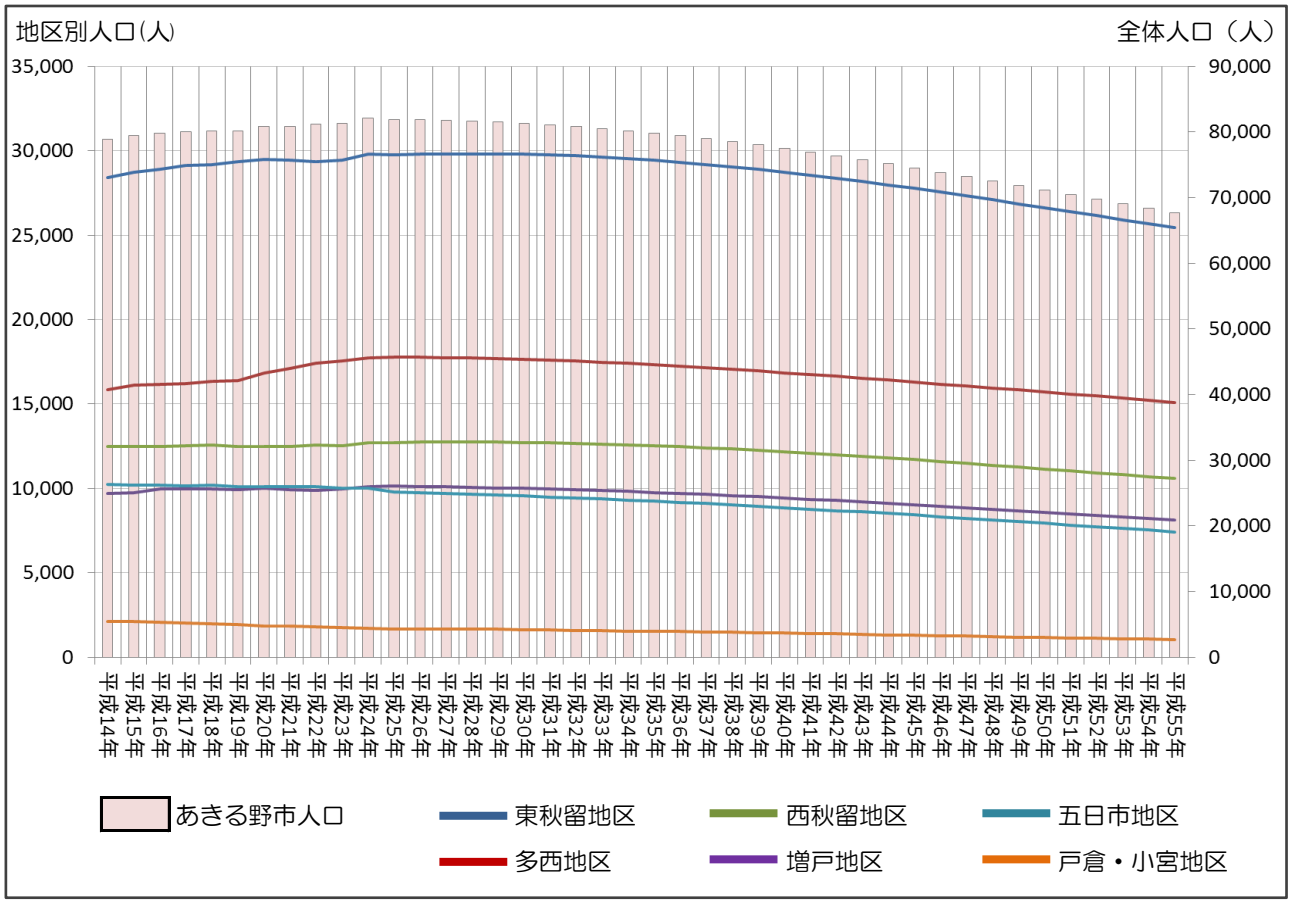
【図-17　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（戸倉・小宮地区）】



【表-2　6地区別人口増加率と老年人口割合】

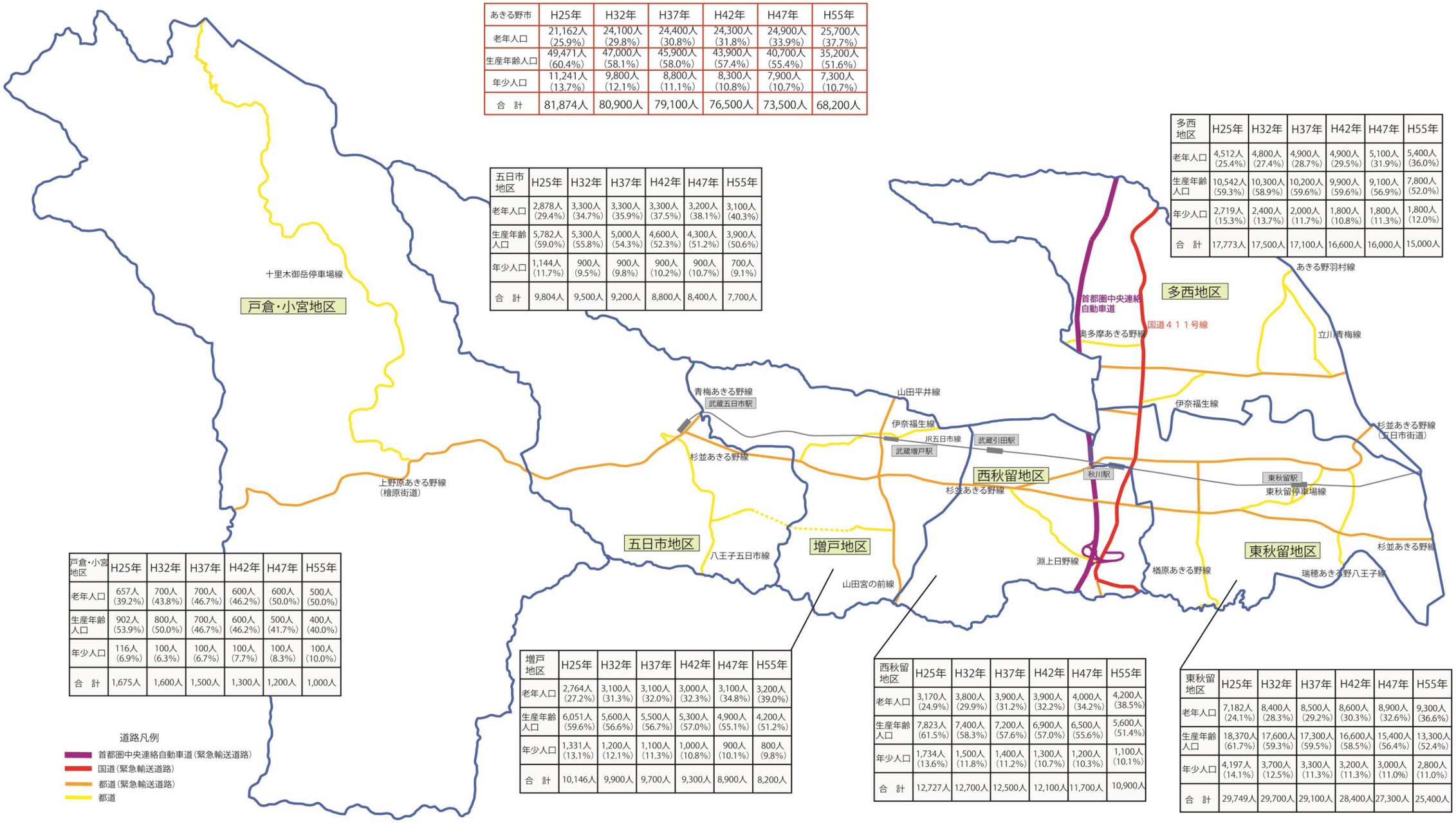
地区名	人口		人口推計		増減率	老年人口割合(高齢化率)	
	H25人口	構成比	H55人口	構成比	H25→H55	H25	H55
東秋留地区	29,749 人	36.3%	25,400 人	37.2%	▲14.6%	24.1%	36.6%
多西地区	17,773 人	21.7%	15,000 人	22.0%	▲15.6%	25.4%	36.0%
西秋留地区	12,727 人	15.5%	10,900 人	16.0%	▲14.4%	24.9%	38.5%
増戸地区	10,146 人	12.4%	8,200 人	12.0%	▲19.2%	27.2%	39.0%
五日市地区	9,804 人	12.0%	7,700 人	11.3%	▲21.5%	29.4%	40.3%
戸倉・小宮地区	1,675 人	2.0%	1,000 人	1.5%	▲40.3%	39.2%	50.0%
合計・平均	81,874 人	100.0%	68,200 人	100.0%	▲20.9%	28.4%	40.1%

【図-18　全体人口及び各地区別人口の推移・推計（6地区別）】



【図-19　6地区別3区分人口の推計】

あきる野市	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	21,162人（25.9%）	24,100人（29.8%）	24,400人（30.8%）	24,300人（31.8%）	24,900人（33.9%）	25,700人（37.7%）
生産年齢人口	49,471人（60.4%）	47,000人（58.1%）	45,900人（58.0%）	43,900人（57.4%）	40,700人（55.4%）	35,200人（51.6%）
年少人口	11,241人（13.7%）	9,800人（12.1%）	8,800人（11.1%）	8,300人（10.8%）	7,900人（10.7%）	7,300人（10.7%）
合　計	81,874人	80,900人	79,100人	76,500人	73,500人	68,200人



五日市地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	2,878人（29.4%）	3,300人（34.7%）	3,300人（35.9%）	3,300人（37.5%）	3,200人（38.1%）	3,100人（40.3%）
生産年齢人口	5,782人（59.0%）	5,300人（55.8%）	5,000人（54.3%）	4,600人（52.3%）	4,300人（51.2%）	3,900人（50.6%）
年少人口	1,144人（11.7%）	900人（9.5%）	900人（9.8%）	900人（10.2%）	900人（10.7%）	700人（9.1%）
合　計	9,804人	9,500人	9,200人	8,800人	8,400人	7,700人

多西地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	4,512人（25.4%）	4,800人（27.4%）	4,900人（28.7%）	4,900人（29.5%）	5,100人（31.9%）	5,400人（36.0%）
生産年齢人口	10,542人（59.3%）	10,300人（58.9%）	10,200人（59.6%）	9,900人（59.6%）	9,100人（56.9%）	7,800人（52.0%）
年少人口	2,719人（15.3%）	2,400人（13.7%）	2,000人（11.7%）	1,800人（10.8%）	1,800人（11.3%）	1,800人（12.0%）
合　計	17,773人	17,500人	17,100人	16,600人	16,000人	15,000人

戸倉・小宮地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	657人（39.2%）	700人（43.8%）	700人（46.7%）	600人（46.2%）	600人（50.0%）	500人（50.0%）
生産年齢人口	902人（53.9%）	800人（50.0%）	700人（46.7%）	600人（46.2%）	500人（41.7%）	400人（40.0%）
年少人口	116人（6.9%）	100人（6.3%）	100人（6.7%）	100人（7.7%）	100人（8.3%）	100人（10.0%）
合　計	1,675人	1,600人	1,500人	1,300人	1,200人	1,000人

増戸地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	2,764人（27.2%）	3,100人（31.3%）	3,100人（32.0%）	3,000人（32.3%）	3,100人（34.8%）	3,200人（39.0%）
生産年齢人口	6,051人（59.6%）	5,600人（56.6%）	5,500人（56.7%）	5,300人（57.0%）	4,900人（55.1%）	4,200人（51.2%）
年少人口	1,331人（13.1%）	1,200人（12.1%）	1,100人（11.3%）	1,000人（10.8%）	900人（10.1%）	800人（9.8%）
合　計	10,146人	9,900人	9,700人	9,300人	8,900人	8,200人

西秋留地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	3,170人（24.9%）	3,800人（29.9%）	3,900人（31.2%）	3,900人（32.2%）	4,000人（34.2%）	4,200人（38.5%）
生産年齢人口	7,823人（61.5%）	7,400人（58.3%）	7,200人（57.6%）	6,900人（57.0%）	6,500人（55.6%）	5,600人（51.4%）
年少人口	1,734人（13.6%）	1,500人（11.8%）	1,400人（11.2%）	1,300人（10.7%）	1,200人（10.3%）	1,100人（10.1%）
合　計	12,727人	12,700人	12,500人	12,100人	11,700人	10,900人

東秋留地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	7,182人（24.1%）	8,400人（28.3%）	8,500人（29.2%）	8,600人（30.3%）	8,900人（32.6%）	9,300人（36.6%）
生産年齢人口	18,370人（61.7%）	17,600人（59.3%）	17,300人（59.5%）	16,600人（58.5%）	15,400人（56.4%）	13,300人（52.4%）
年少人口	4,197人（14.1%）	3,700人（12.5%）	3,300人（11.3%）	3,200人（11.3%）	3,000人（11.0%）	2,800人（11.0%）
合　計	29,749人	29,700人	29,100人	28,400人	27,300人	25,400人

（２）小学校単位による地区別人口推計

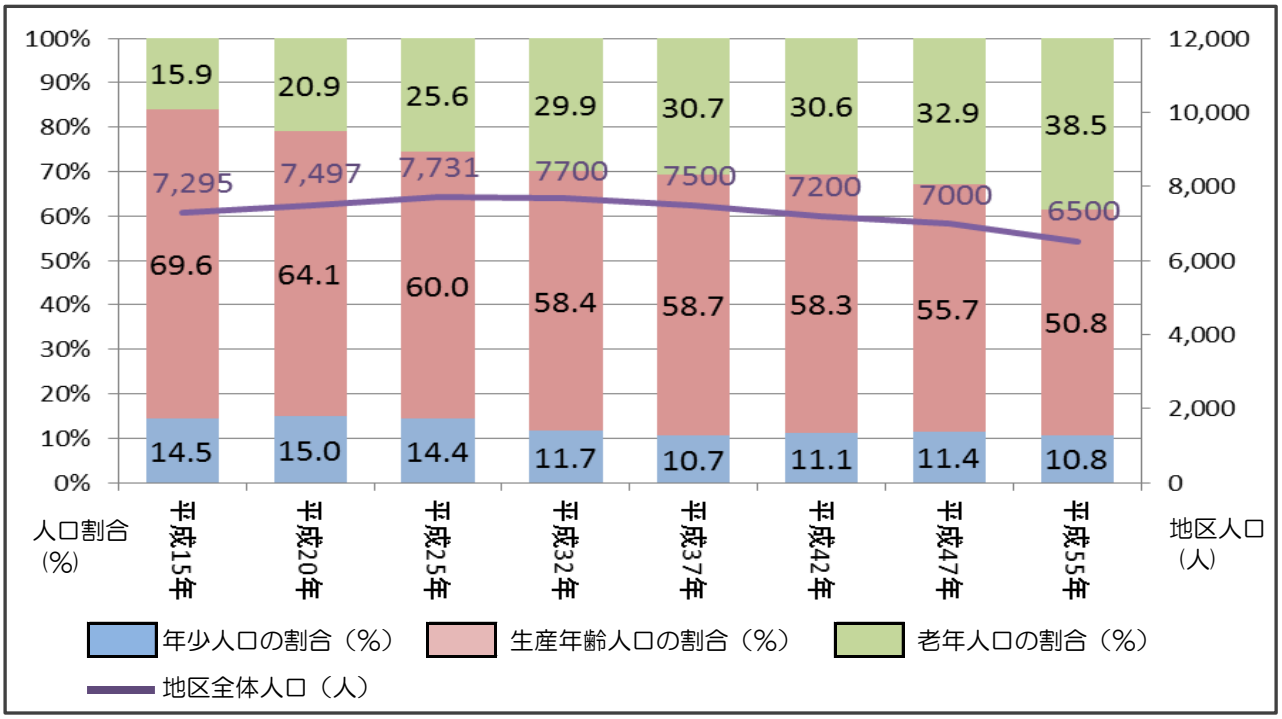
東秋留、多西、西秋留、屋城、南秋留、草花、一の谷、前田、増戸及び五日市の小学校区（１０地区）の人口の推移では、五日市小学校区の人口が年々減少している傾向にあり、各地区では、超高齢化社会の指標である高齢化率が２０パーセントを既に超えています。

また、人口推計では、東秋留、西秋留、屋城、草花、一の谷、前田小学校区の６地区で平成３２年まで人口はほぼ横ばいで推移しますが、多西、南秋留、増戸及び五日市小学校区の４地区では減少に転じ、平成５５年の予測では、各地区の平均の人口で、１６．４ポイント減少し、さらに、高齢化率では、既に高い割合を示している五日市地区を除く９地区で１０ポイント以上上昇する一方で、生産年齢人口は、およそ１０ポイント低下し、人口減少や少子高齢化が進行していきます。

特に、人口急増期に整備された一の谷小学校、前田小学校及び屋城小学校の３地区では、他の７地区と比較して小規模な地区であるとともに、昭和50年代の新興住宅地を中心に形成してきた市街地特性等を踏まえ、人口の構造や密度の変化に加え、年少人口の推移等に注視するなど、地区の人口や市街地の構造変化に対応した公共施設等の在り方を今後検討していくことが必要です。

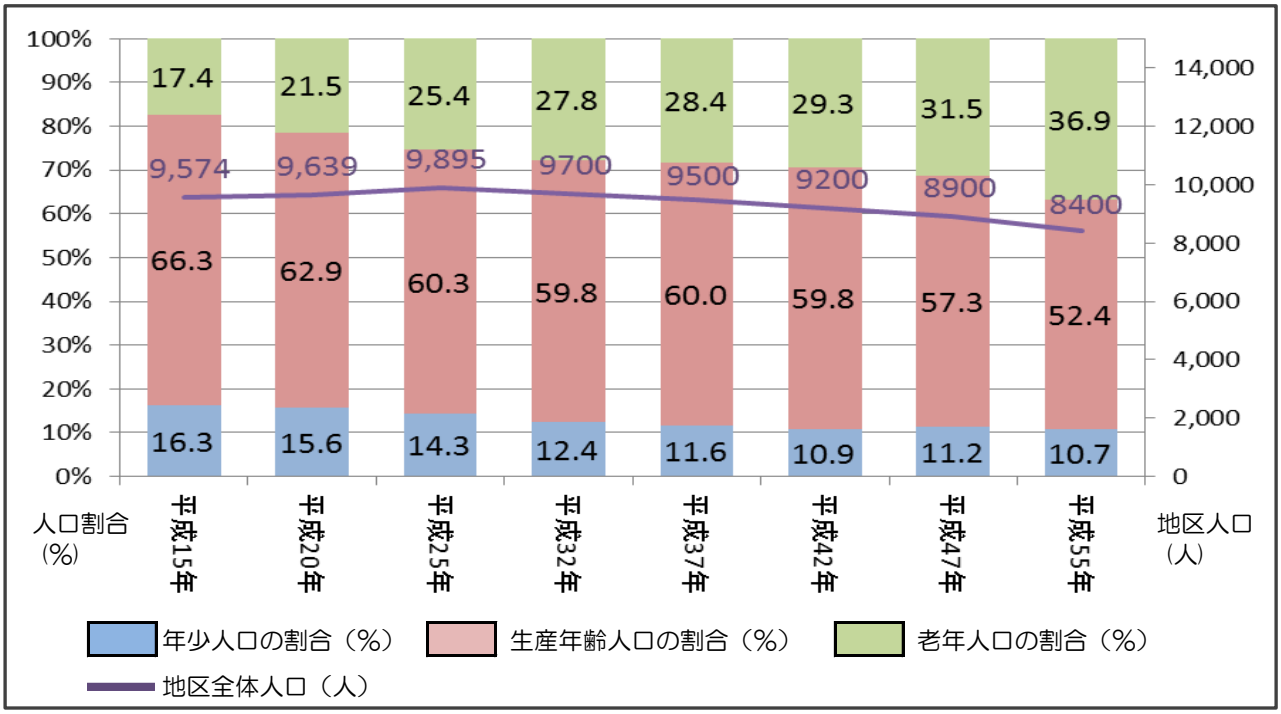
≪東秋留小学校区≫

【図-20　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（東秋留小学校区）】



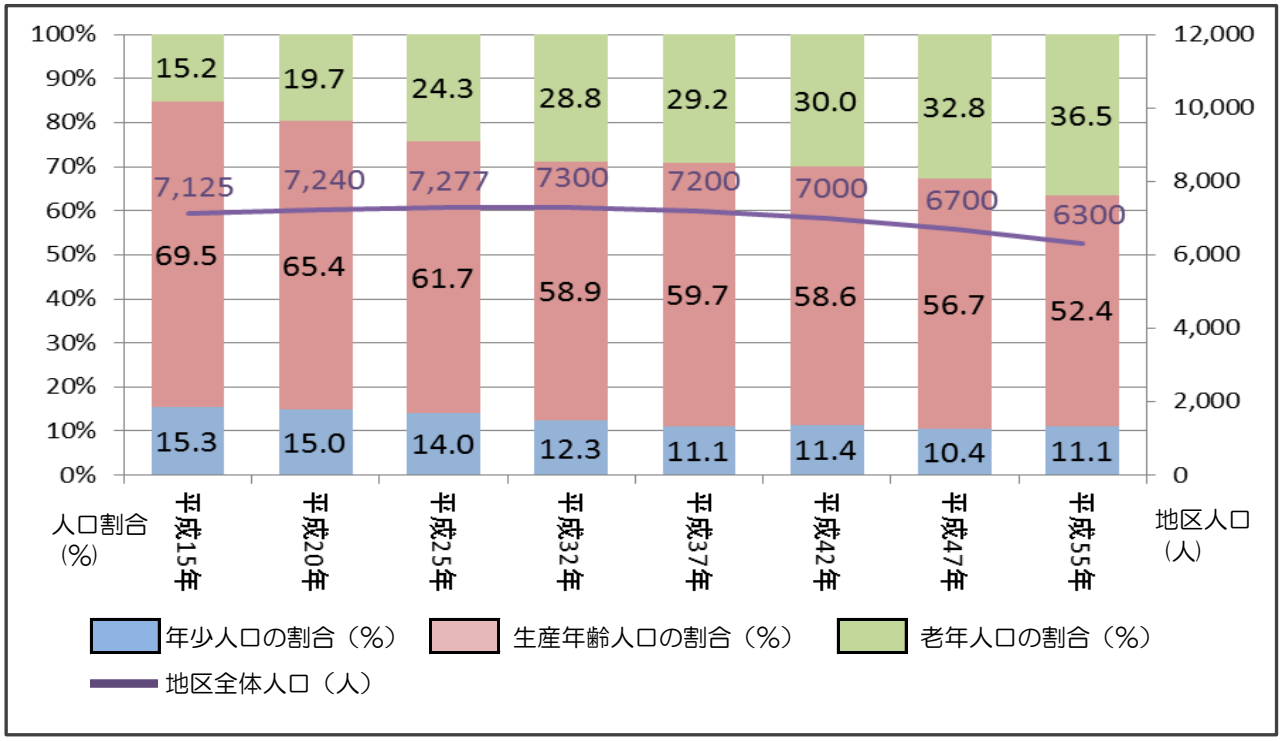
≪多西小学校区≫

【図-21　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（多西小学校区）】



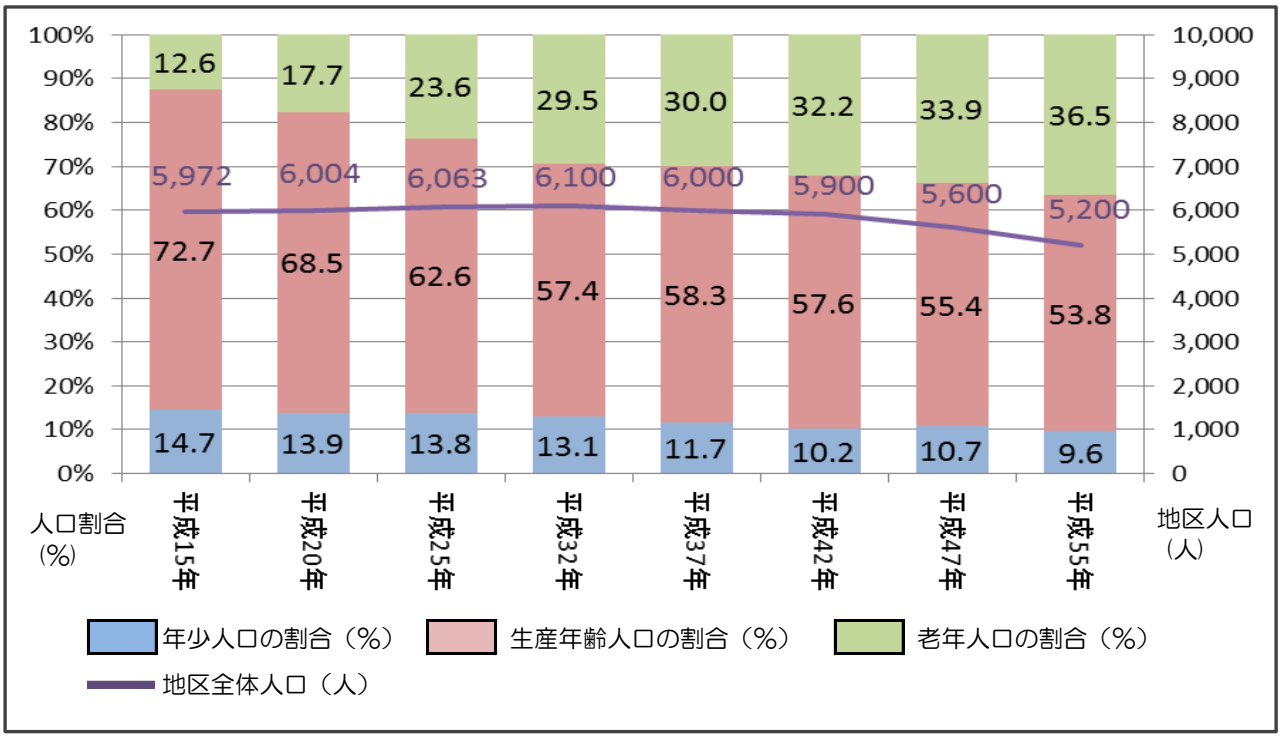
≪西秋留小学校区≫

【図-22　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（西秋留小学校区）】



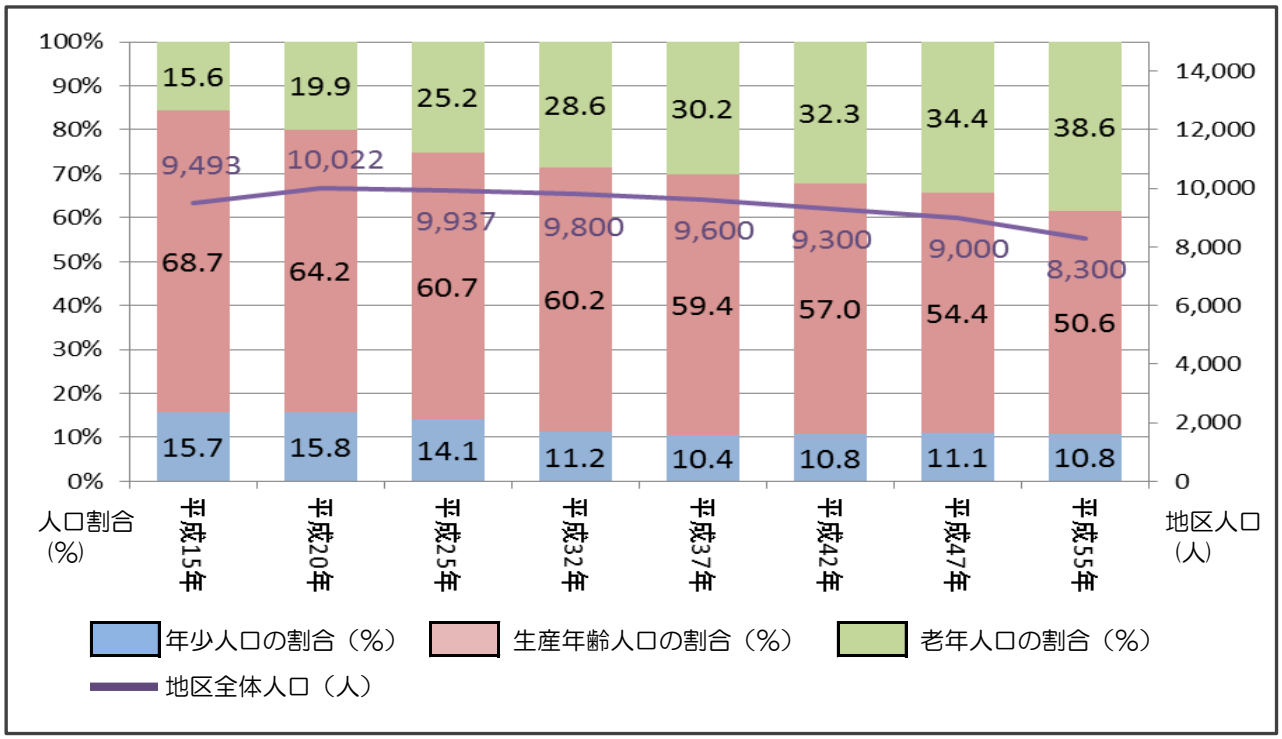
≪屋城小学校区≫

【図-23　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（屋城小学校区）】



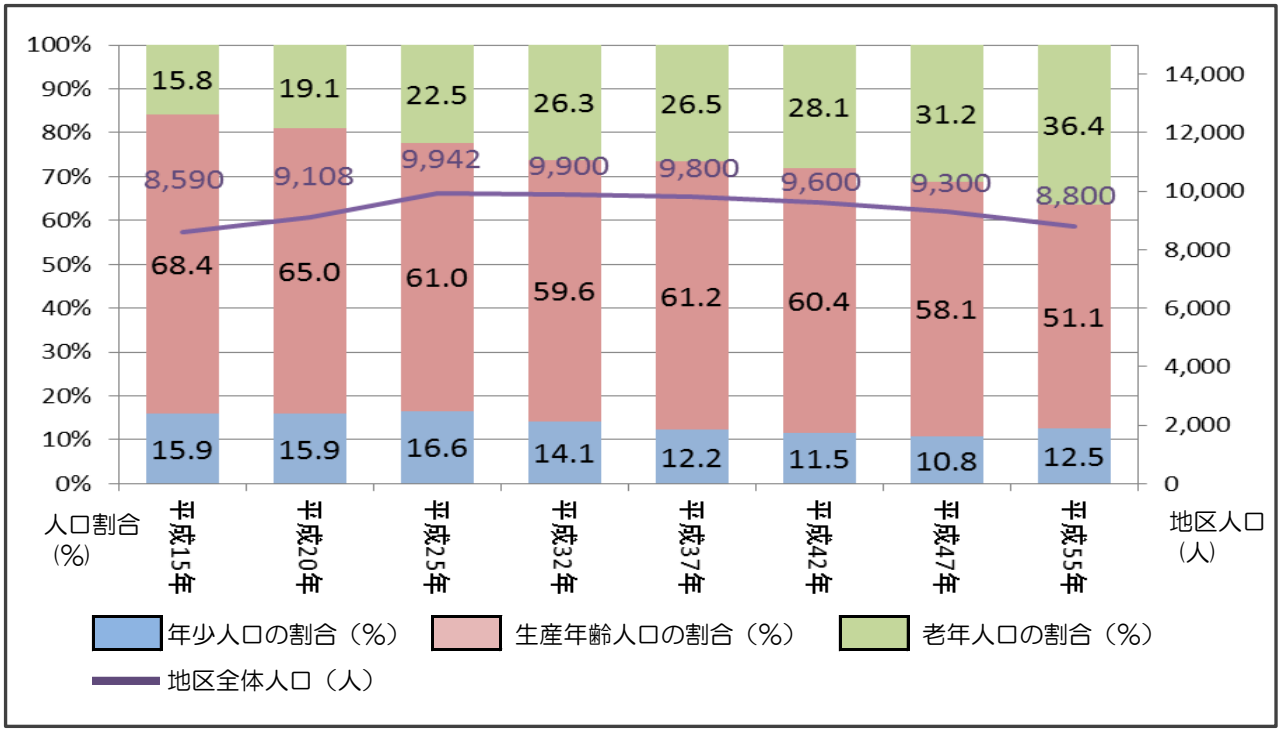
≪南秋留小学校区≫

【図-24　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（南秋留小学校区）】



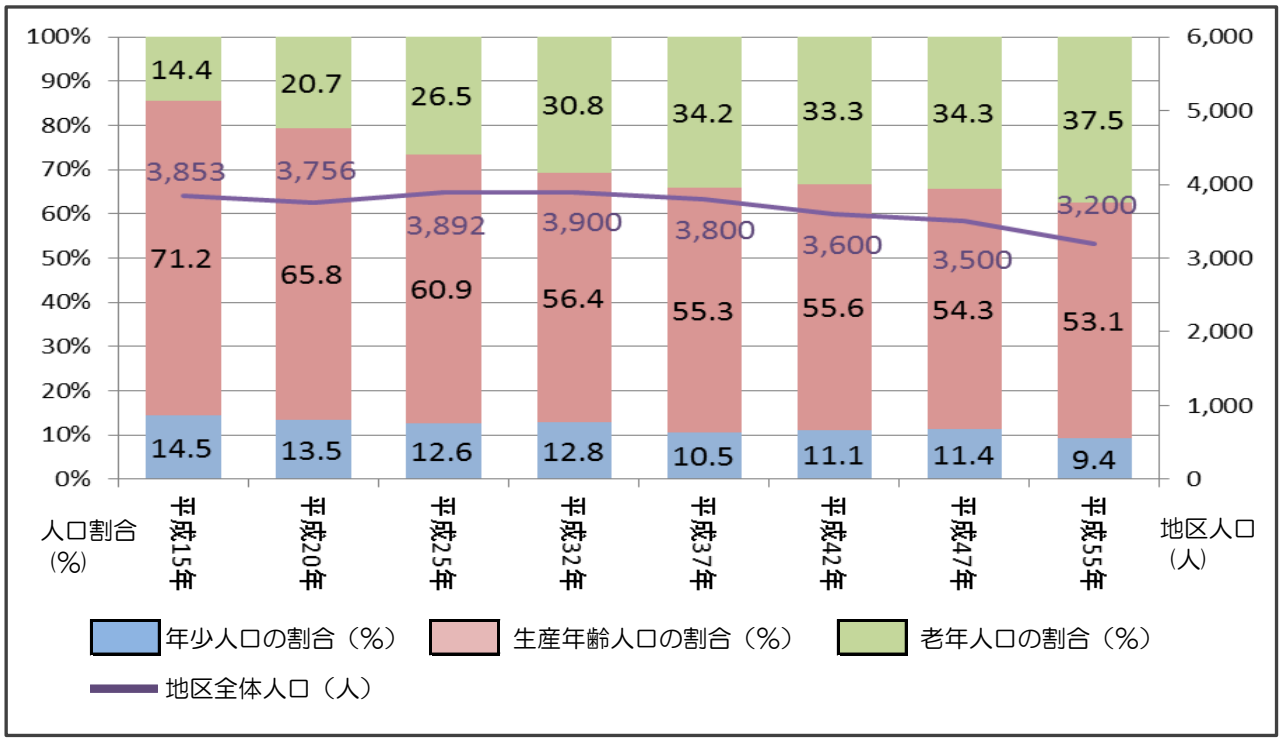
≪草花小学校区≫

【図-25　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（草花小学校区）】



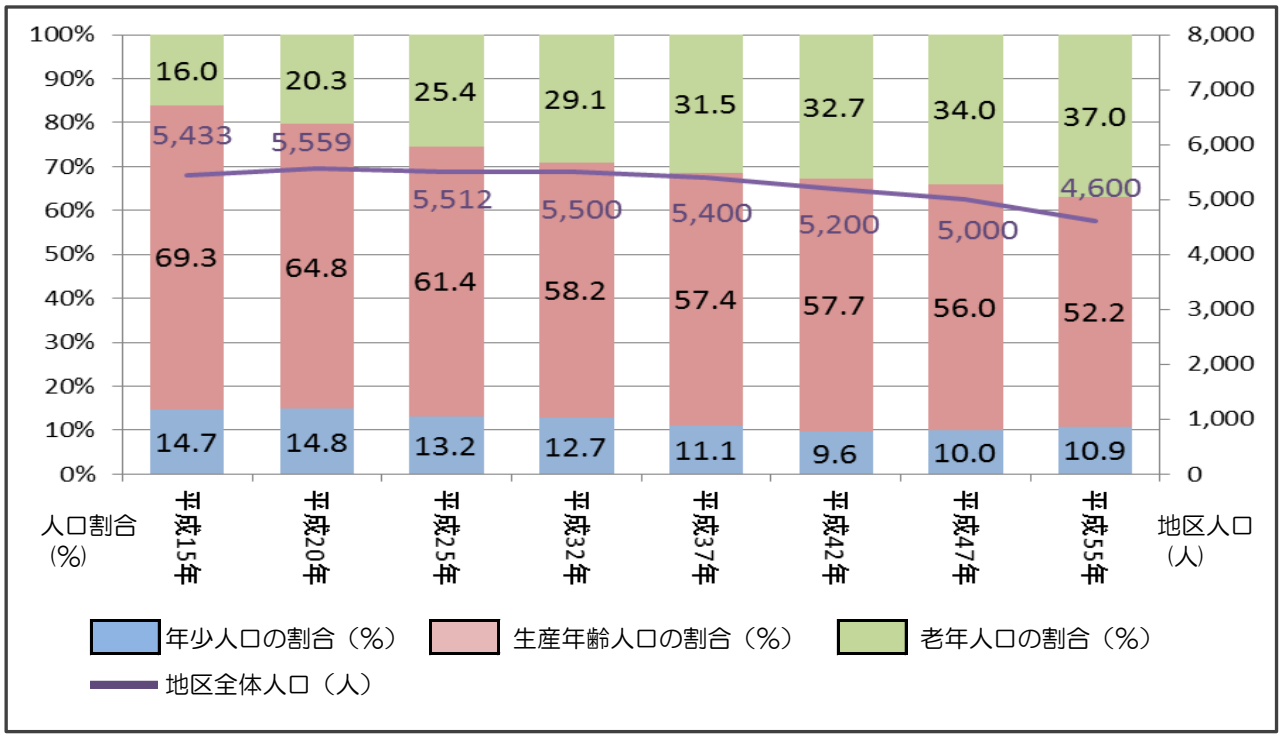
≪一の谷小学校区≫

【図-26　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（一の谷小学校区）】



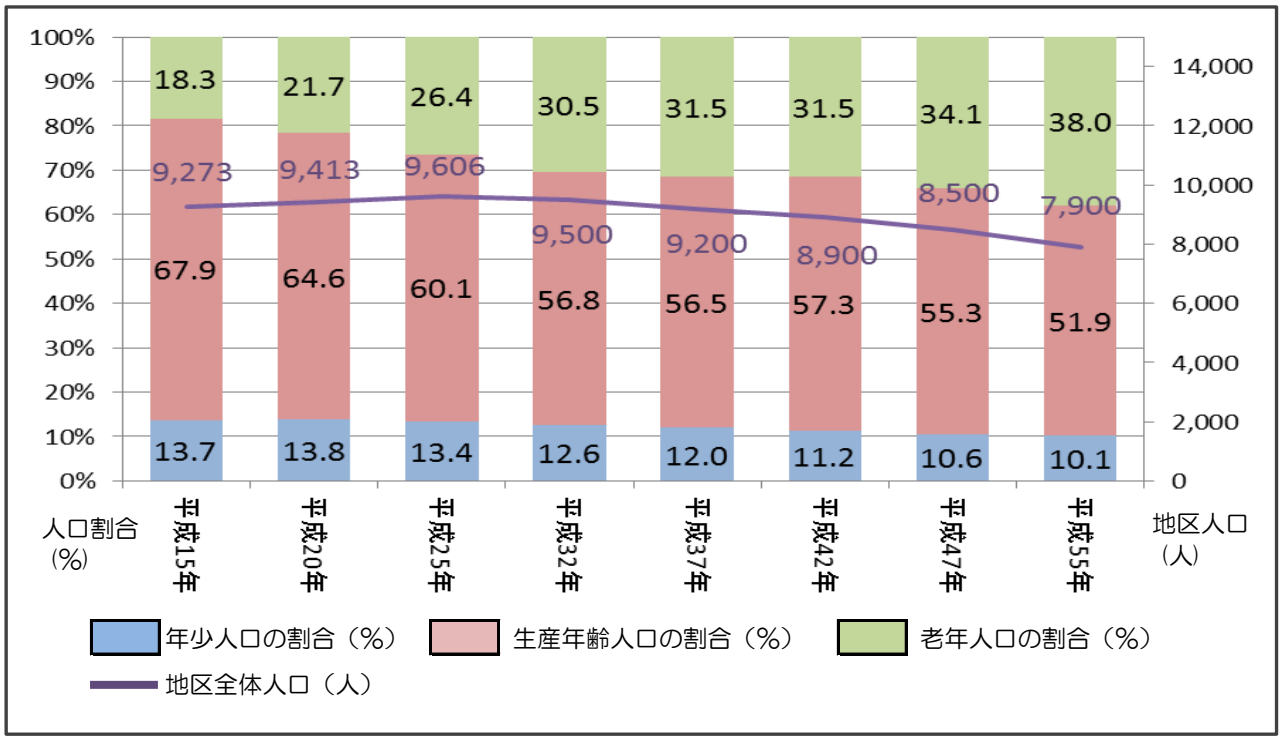
≪前田小学校区≫

【図-27　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（前田小学校区）】



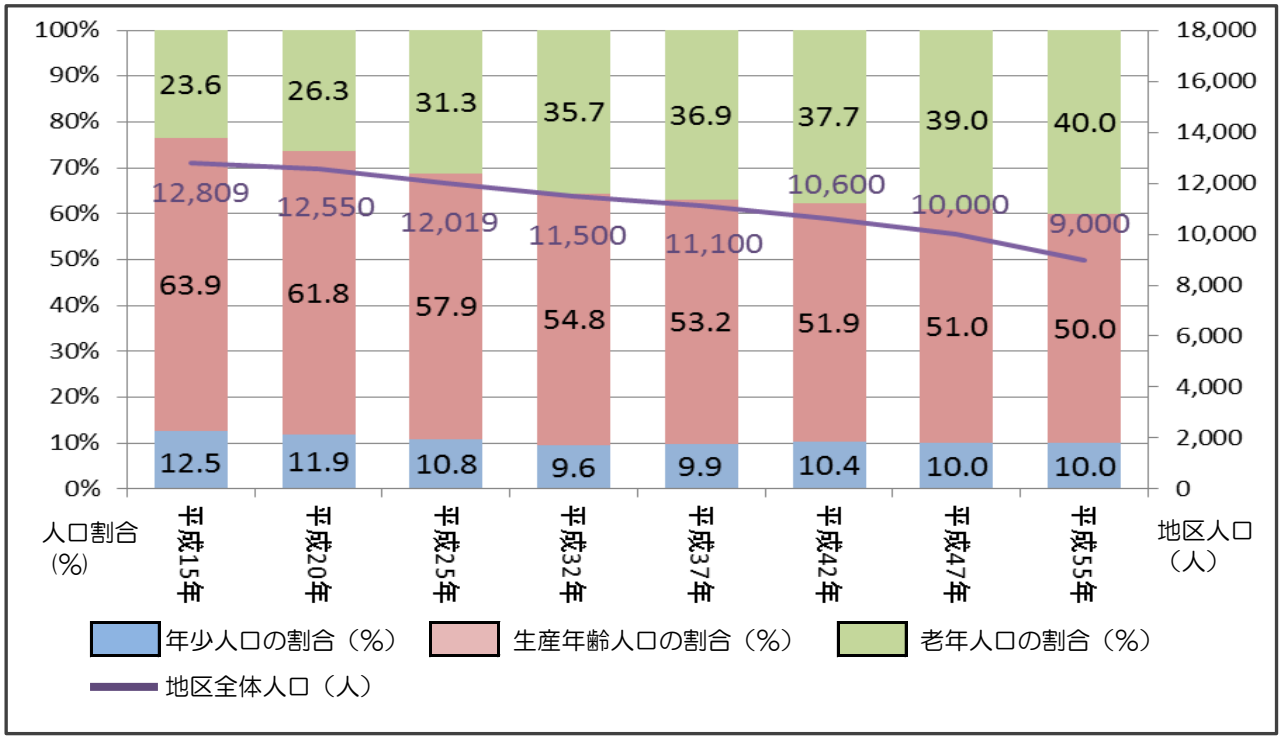
≪増戸小学校区≫

【図-28　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（増戸小学校区）】



≪五日市小学校区≫

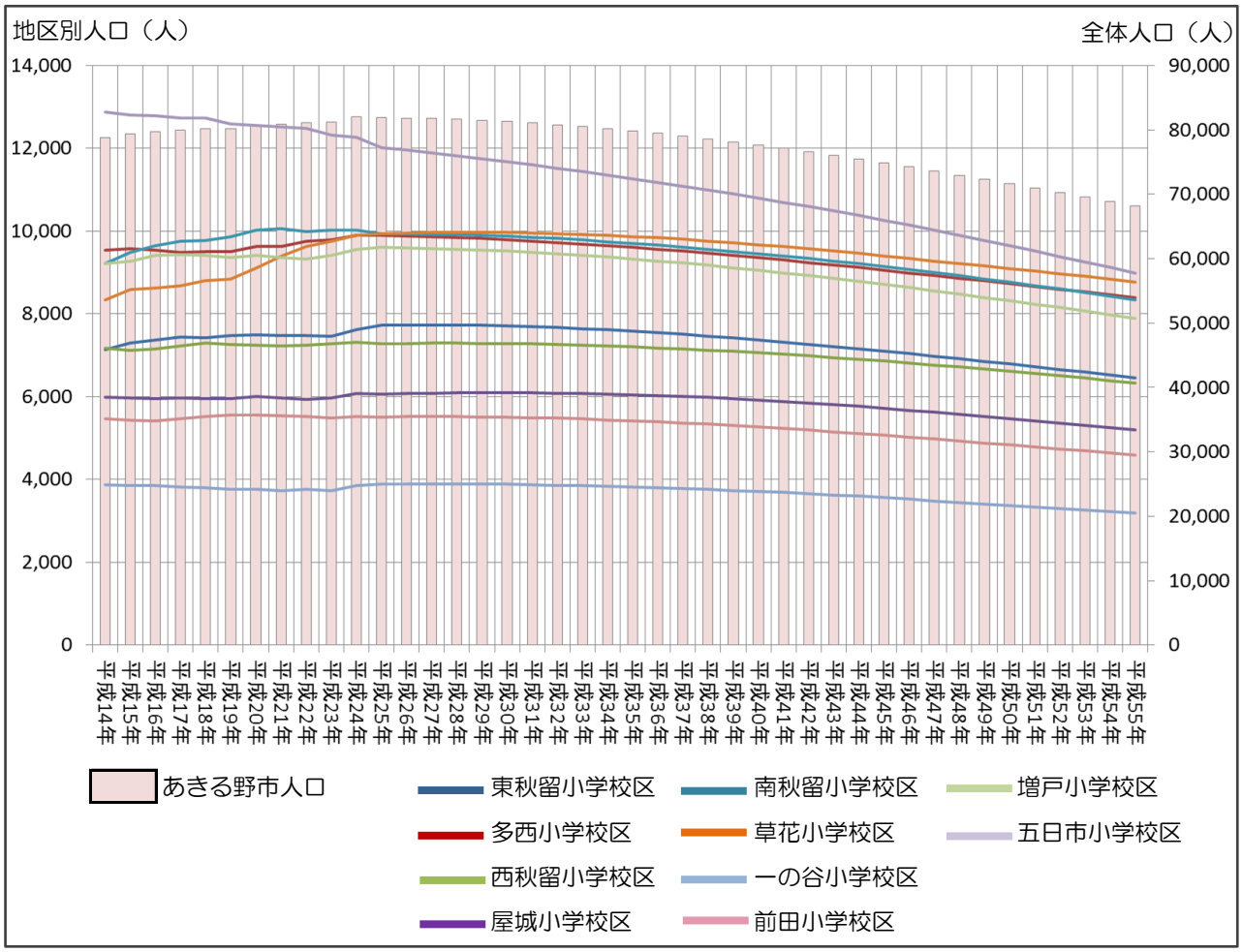
【図-29　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（五日市小学校区）】



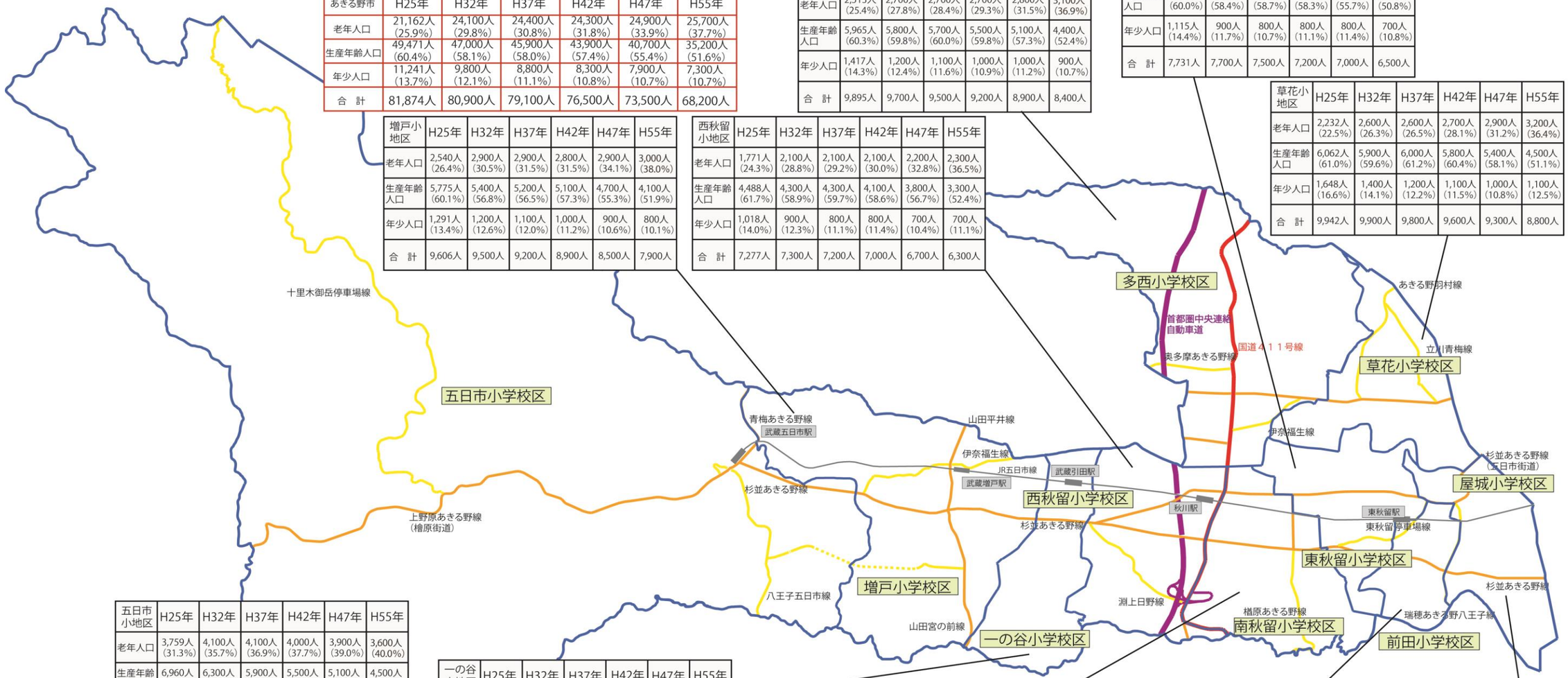
【表-3　小学校区別人口増加率と老年人口割合】

地区名	人口		人口推計		増減率	老年人口割合(高齢化率)	
	H25人口	構成比	H55人口	構成比	H25→H55	H25	H55
東秋留小学校区	7,731 人	9.4%	6,500 人	9.5%	▲15.9%	25.6%	38.5%
多西小学校区	9,895 人	12.1%	8,400 人	12.3%	▲15.1%	25.4%	36.9%
西秋留小学校区	7,277 人	8.9%	6,300 人	9.2%	▲13.4%	24.3%	36.5%
屋城小学校区	6,063 人	7.4%	5,200 人	7.6%	▲14.2%	23.6%	36.5%
南秋留小学校区	9,937 人	12.1%	8,300 人	12.2%	▲16.5%	25.2%	38.6%
草花小学校区	9,942 人	12.1%	8,800 人	12.9%	▲11.5%	22.5%	36.0%
一の谷小学校区	3,892 人	4.8%	3,200 人	4.7%	▲17.8%	26.5%	38.7%
前田小学校区	5,512 人	6.7%	4,600 人	6.7%	▲16.5%	25.4%	37.0%
増戸小学校区	9,606 人	11.7%	7,900 人	11.6%	▲17.8%	26.4%	38.0%
五日市小学校区	12,019 人	14.7%	9,000 人	13.2%	▲25.1%	31.3%	40.0%
合計・平均	81,874 人	100.0%	68,200 人	100.0%	▲16.4%	25.6%	37.7%

【図-30　全体人口及び各地区別人口の推移・推計（小学校区別）】



【図-31　小学校区別3区分人口の推計】



あきる野市	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	21,162人（25.9%）	24,100人（29.8%）	24,400人（30.8%）	24,300人（31.8%）	24,900人（33.9%）	25,700人（37.7%）
生産年齢人口	49,471人（60.4%）	47,000人（58.1%）	45,900人（58.0%）	43,900人（57.4%）	40,700人（55.4%）	35,200人（51.6%）
年少人口	11,241人（13.7%）	9,800人（12.1%）	8,800人（11.1%）	8,300人（10.8%）	7,900人（10.7%）	7,300人（10.7%）
合　計	81,874人	80,900人	79,100人	76,500人	73,500人	68,200人

多西小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	2,513人（25.4%）	2,700人（27.8%）	2,700人（28.4%）	2,700人（29.3%）	2,800人（31.5%）	3,100人（36.9%）
生産年齢人口	5,965人（60.3%）	5,800人（59.8%）	5,700人（60.0%）	5,500人（59.8%）	5,100人（57.3%）	4,400人（52.4%）
年少人口	1,417人（14.3%）	1,200人（12.4%）	1,100人（11.6%）	1,000人（10.9%）	1,000人（11.2%）	900人（10.7%）
合　計	9,895人	9,700人	9,500人	9,200人	8,900人	8,400人

東秋留小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	1,978人（25.6%）	2,300人（29.9%）	2,300人（30.7%）	2,200人（30.6%）	2,300人（32.9%）	2,500人（38.5%）
生産年齢人口	4,638人（60.0%）	4,500人（58.4%）	4,400人（58.7%）	4,200人（58.3%）	3,900人（55.7%）	3,300人（50.8%）
年少人口	1,115人（14.4%）	900人（11.7%）	800人（10.7%）	800人（11.1%）	800人（11.4%）	700人（10.8%）
合　計	7,731人	7,700人	7,500人	7,200人	7,000人	6,500人

草花小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	2,232人（22.5%）	2,600人（26.3%）	2,600人（26.5%）	2,700人（28.1%）	2,900人（31.2%）	3,200人（36.4%）
生産年齢人口	6,062人（61.0%）	5,900人（59.6%）	6,000人（61.2%）	5,800人（60.4%）	5,400人（58.1%）	4,500人（51.1%）
年少人口	1,648人（16.6%）	1,400人（14.1%）	1,200人（12.2%）	1,100人（11.5%）	1,000人（10.8%）	1,100人（12.5%）
合　計	9,942人	9,900人	9,800人	9,600人	9,300人	8,800人

増戸小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	2,540人（26.4%）	2,900人（30.5%）	2,900人（31.5%）	2,800人（31.5%）	2,900人（34.1%）	3,000人（38.0%）
生産年齢人口	5,775人（60.1%）	5,400人（56.8%）	5,200人（56.5%）	5,100人（57.3%）	4,700人（55.3%）	4,100人（51.9%）
年少人口	1,291人（13.4%）	1,200人（12.6%）	1,100人（12.0%）	1,000人（11.2%）	900人（10.6%）	800人（10.1%）
合　計	9,606人	9,500人	9,200人	8,900人	8,500人	7,900人

西秋留小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	1,771人（24.3%）	2,100人（28.8%）	2,100人（29.2%）	2,100人（30.0%）	2,200人（32.8%）	2,300人（36.5%）
生産年齢人口	4,488人（61.7%）	4,300人（58.9%）	4,300人（59.7%）	4,100人（58.6%）	3,800人（56.7%）	3,300人（52.4%）
年少人口	1,018人（14.0%）	900人（12.3%）	800人（11.1%）	800人（11.4%）	700人（10.4%）	700人（11.1%）
合　計	7,277人	7,300人	7,200人	7,000人	6,700人	6,300人

五日市小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	3,759人（31.3%）	4,100人（35.7%）	4,100人（36.9%）	4,000人（37.7%）	3,900人（39.0%）	3,600人（40.0%）
生産年齢人口	6,960人（57.9%）	6,300人（54.8%）	5,900人（53.2%）	5,500人（51.9%）	5,100人（51.0%）	4,500人（50.0%）
年少人口	1,300人（10.8%）	1,100人（9.6%）	1,100人（9.9%）	1,100人（10.4%）	1,000人（10.0%）	900人（10.0%）
合　計	12,019人	11,500人	11,100人	10,600人	10,000人	9,000人

一の谷小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	1,031人（26.5%）	1,200人（30.8%）	1,300人（34.2%）	1,200人（33.3%）	1,200人（34.3%）	1,200人（37.5%）
生産年齢人口	2,371人（60.9%）	2,200人（56.4%）	2,100人（55.3%）	2,000人（55.6%）	1,900人（54.3%）	1,700人（53.1%）
年少人口	490人（12.6%）	500人（12.8%）	400人（10.5%）	400人（11.1%）	400人（11.4%）	300人（9.4%）
合　計	3,892人	3,900人	3,800人	3,600人	3,500人	3,200人

道路凡例

- 首都圏中央連絡自動車道（緊急輸送道路）
- 国道（緊急輸送道路）
- 都道（緊急輸送道路）
- 都道

南秋留小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	2,506人（25.2%）	2,800人（28.6%）	2,900人（30.2%）	3,000人（32.3%）	3,100人（34.4%）	3,200人（38.6%）
生産年齢人口	6,034人（60.7%）	5,900人（60.2%）	5,700人（59.4%）	5,300人（57.0%）	4,900人（54.4%）	4,200人（50.6%）
年少人口	1,397人（14.1%）	1,100人（11.2%）	1,000人（10.4%）	1,000人（10.8%）	1,000人（11.1%）	900人（10.8%）
合　計	9,937人	9,800人	9,600人	9,300人	9,000人	8,300人

前田小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	1,401人（25.4%）	1,600人（29.1%）	1,700人（31.5%）	1,700人（32.7%）	1,700人（34.0%）	1,700人（37.0%）
生産年齢人口	3,382人（61.4%）	3,200人（58.2%）	3,100人（57.4%）	3,000人（57.7%）	2,800人（56.0%）	2,400人（52.2%）
年少人口	729人（13.2%）	700人（12.7%）	600人（11.1%）	500人（9.6%）	500人（10.0%）	500人（10.9%）
合　計	5,512人	5,500人	5,400人	5,200人	5,000人	4,600人

屋城小地区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	1,431人（23.6%）	1,800人（29.5%）	1,800人（30.0%）	1,900人（32.2%）	1,900人（33.9%）	1,900人（36.5%）
生産年齢人口	3,796人（62.6%）	3,500人（57.4%）	3,500人（58.3%）	3,400人（57.6%）	3,100人（55.4%）	2,800人（53.8%）
年少人口	836人（13.8%）	800人（13.1%）	700人（11.7%）	600人（10.2%）	600人（10.7%）	500人（9.6%）
合　計	6,063人	6,100人	6,000人	5,900人	5,600人	5,200人

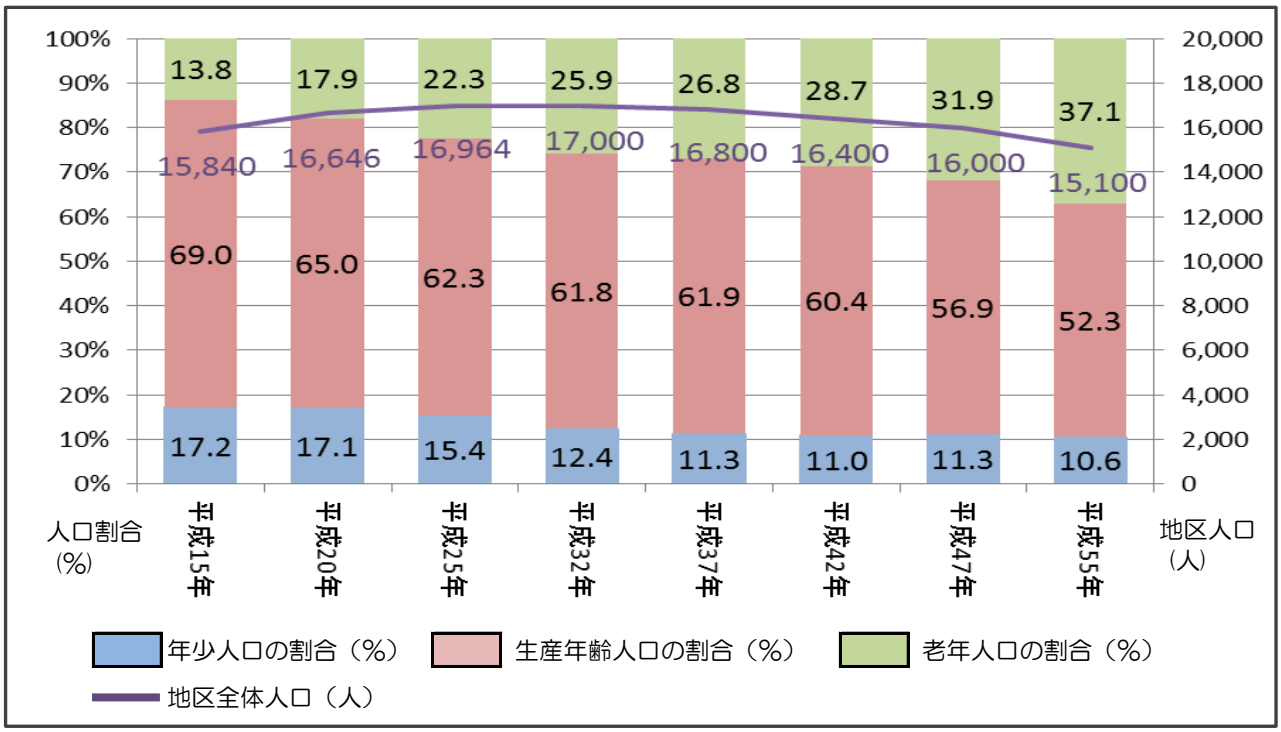
（３）中学校単位による地区別人口推計

秋多、東、西、御堂、増戸及び五日市の中学校区（６地区）の人口の推移では、小学校区と同様に、五日市中学校区の人口が年々減少している傾向のほか、各地区で超高齢化社会の指標である高齢化率が２０パーセントを超えています。

また、人口推計では、秋多、東、西中学校区の３地区で平成３２年まで人口はほぼ横ばいで推移しますが、御堂、増戸及び五日市中学校区の３地区で減少に転じ、平成５５年の予測では、各地区の平均の人口で、１７．２ポイント減少し、さらに、高齢化率では、既に高い割合を示している五日市地区を除く５地区で１０ポイント以上上昇する一方で、生産年齢人口は、およそ１０ポイント低下し、各地区で人口減少や少子高齢化が進行していきます。

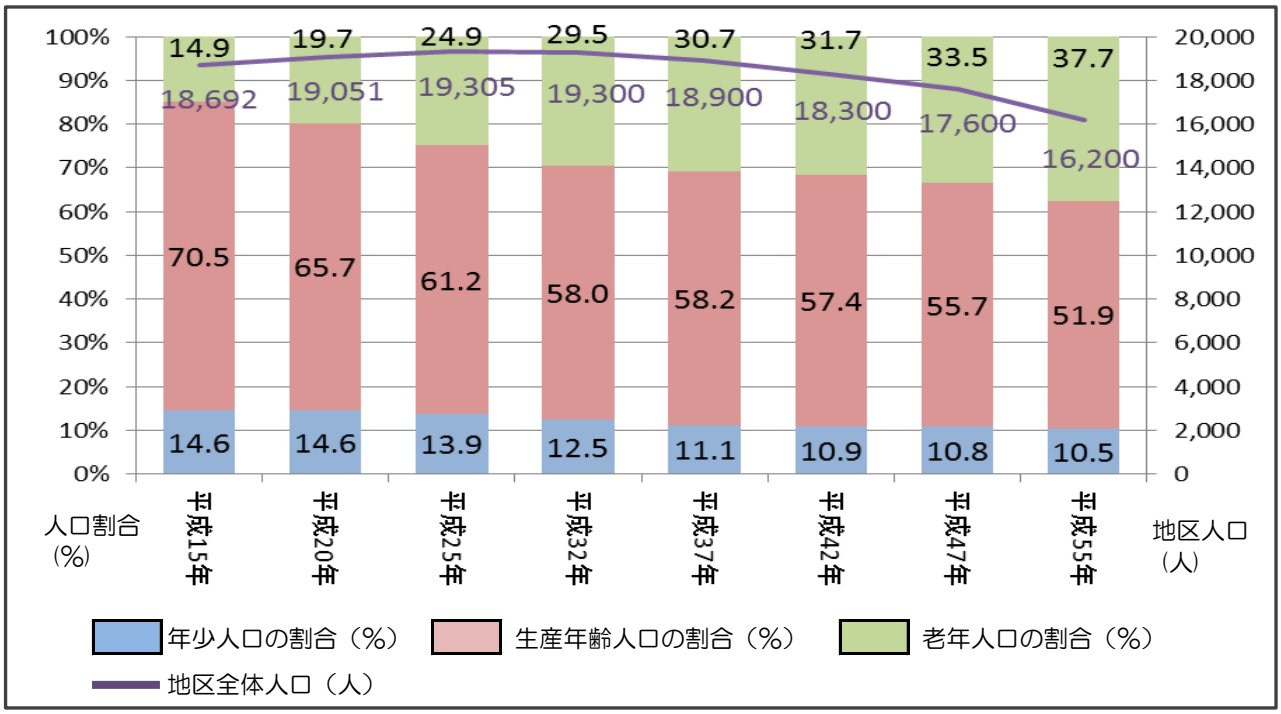
≪秋多中学校区≫

【図-32　年齢3区分別人口及び構成比の推移・推計（秋多中学校区）】



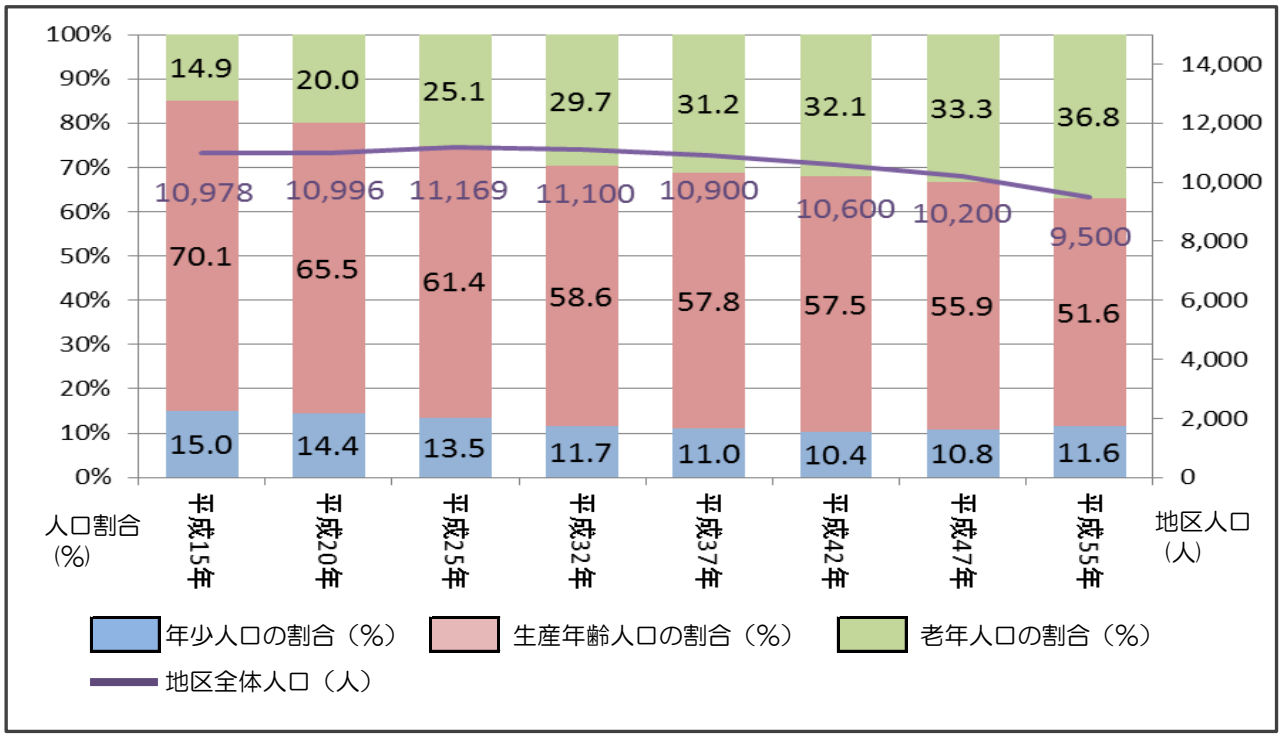
≪東中学校区≫

【図-33　年齢3区分人口及び構成比の推移・推計（東中学校区）】



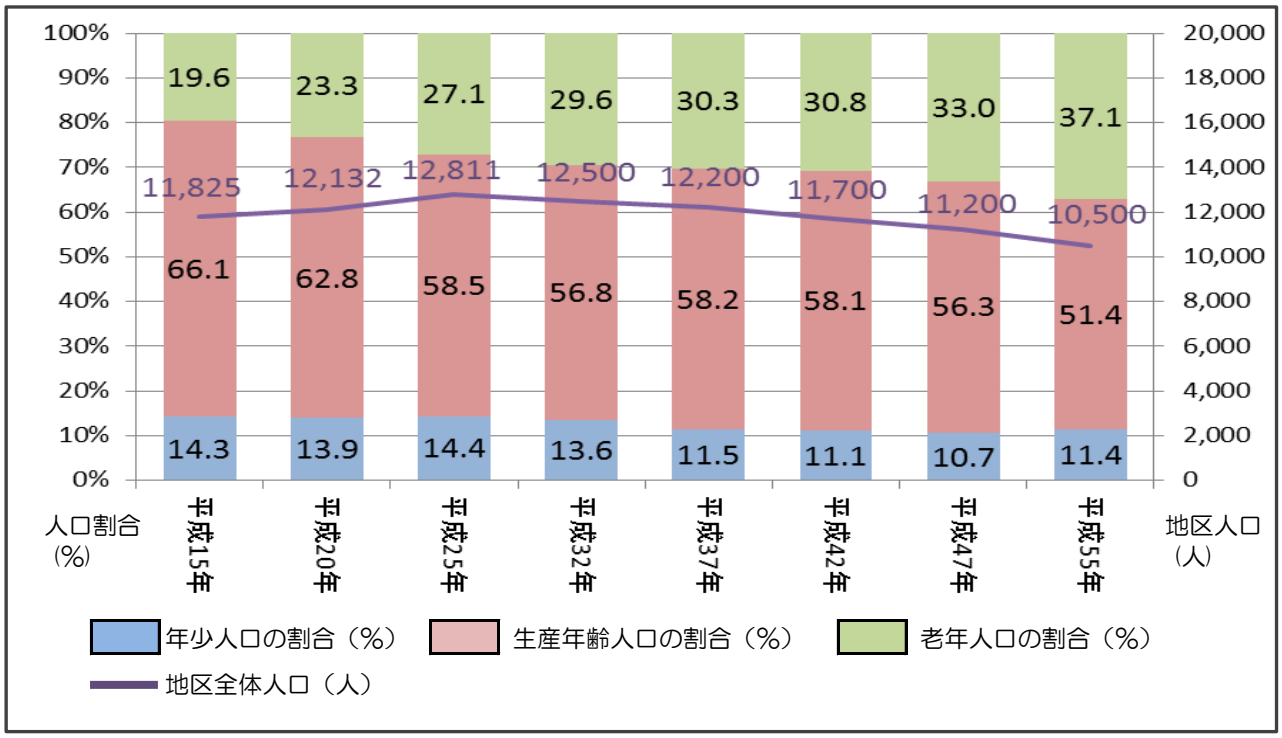
≪西中学校区≫

【図-34　年齢3区分人口及び構成比の推移・推計（西中学校区）】



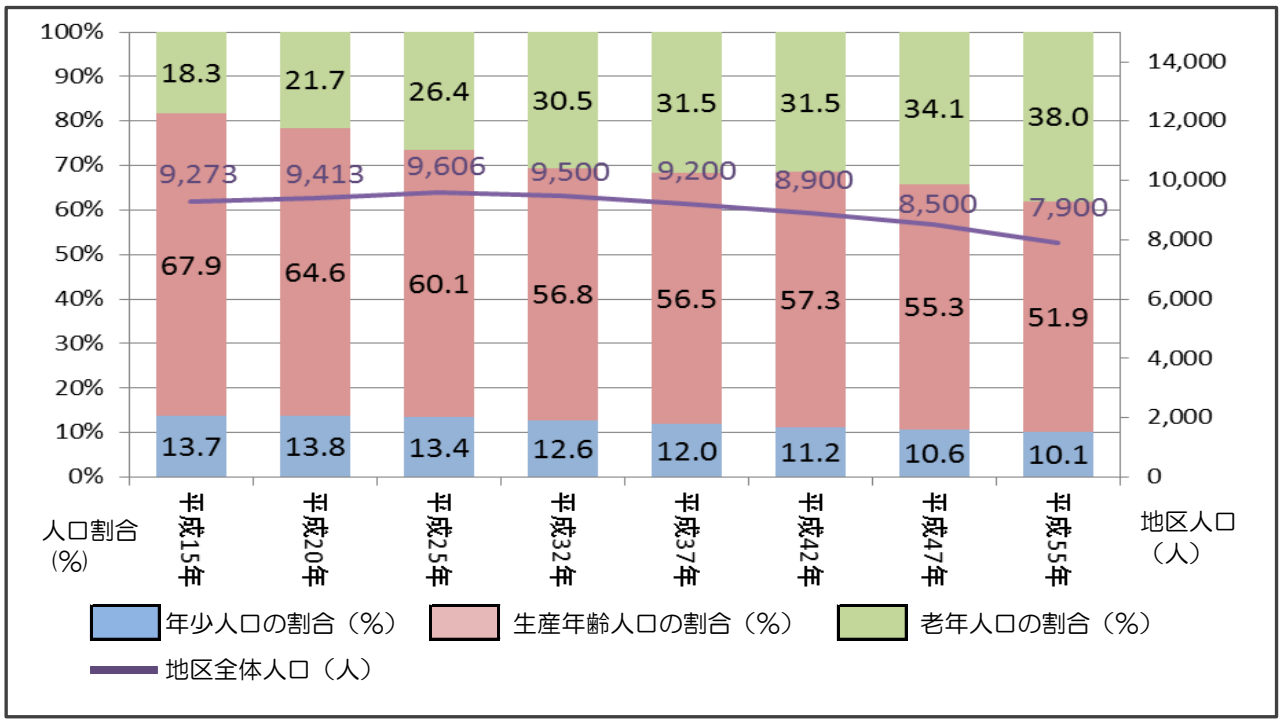
≪御堂中学校区≫

【図-35　年齢3区分人口及び構成比の推移・推計（御堂中学校区）】



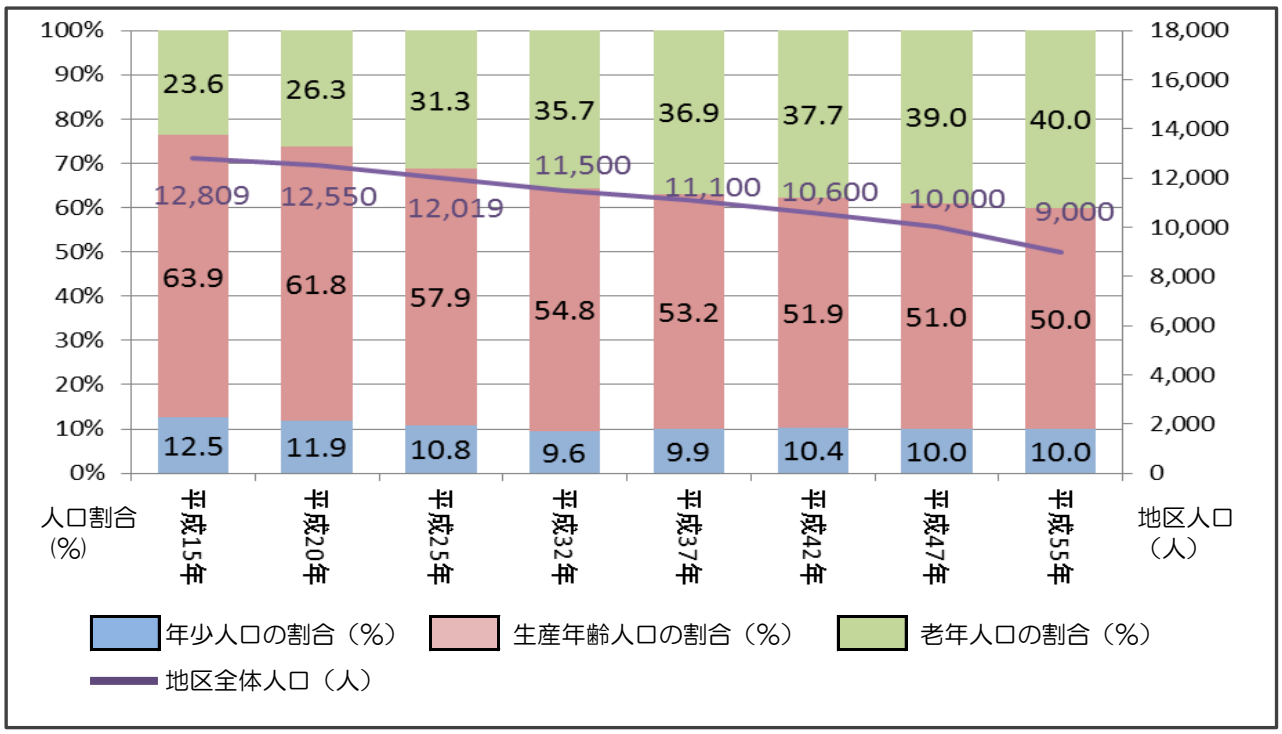
≪増戸中学校区≫

【図-36　年齢3区分人口及び構成比の推移・推計（増戸中学校区）】



≪五日市中学校区≫

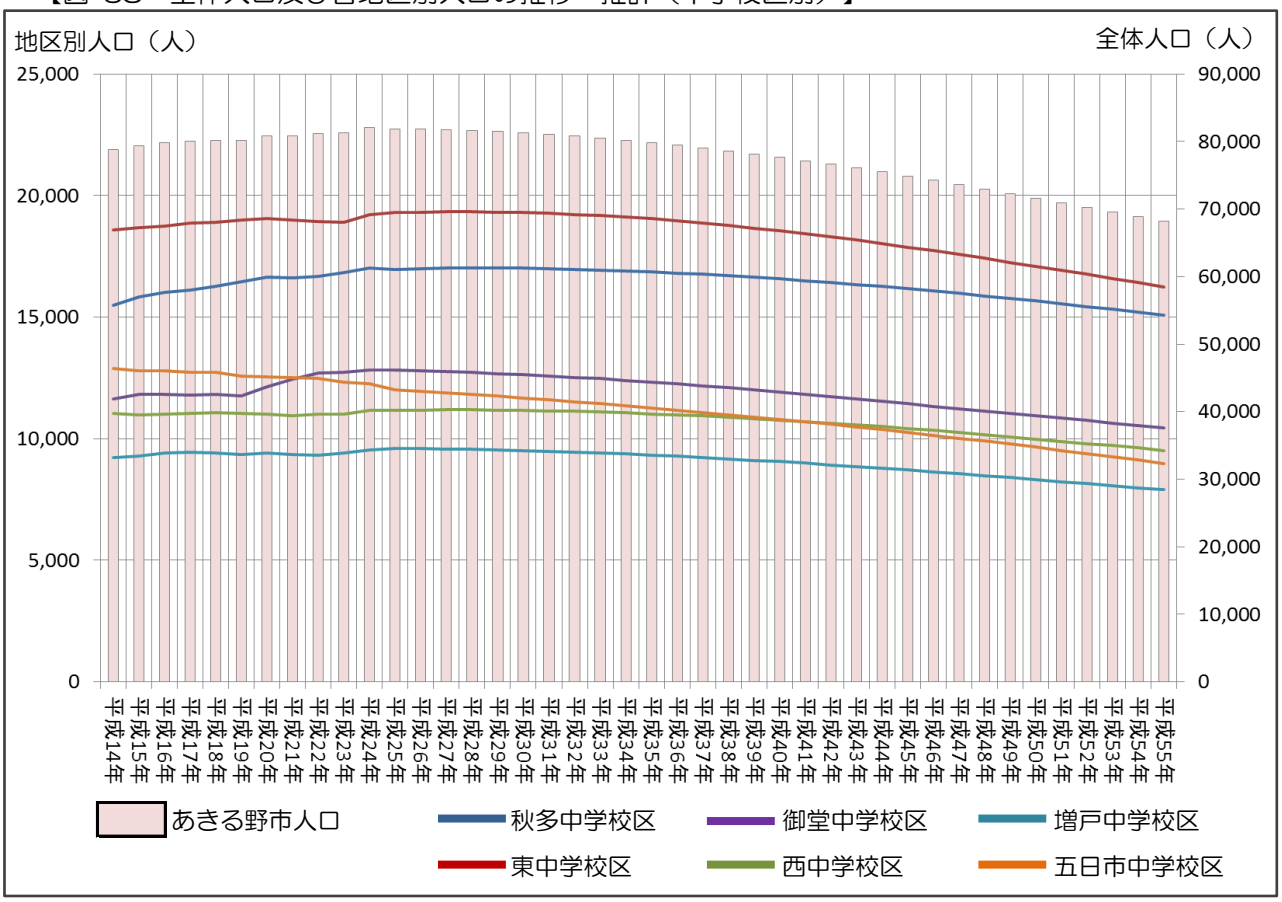
【図-37　年齢3区分人口及び構成比の推移・推計（五日市中学校区）】



【表-4　中学校区別人口増加率と老年人口割合】

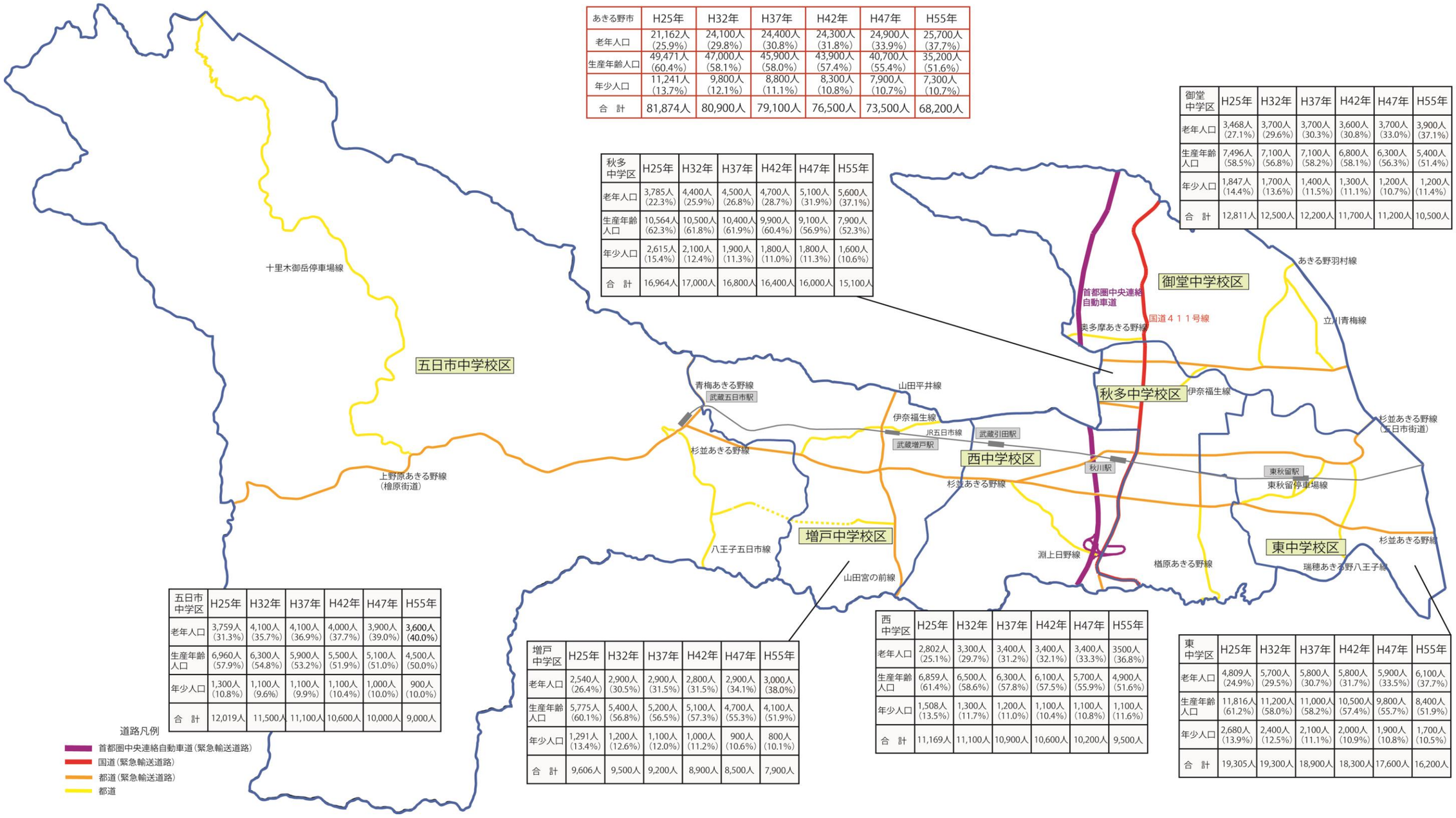
地区名	人口		人口推計		増減率	老年人口割合(高齢化率)	
	H25人口	構成比	H55人口	構成比	H25→H55	H25	H55
秋多中学校区	16,964 人	20.7%	15,100 人	22.1%	▲11.0%	22.3%	37.1%
東中学校区	19,305 人	23.6%	16,200 人	23.8%	▲16.1%	24.9%	37.7%
西中学校区	11,169 人	13.6%	9,500 人	13.9%	▲14.9%	25.1%	36.8%
御堂中学校区	12,811 人	15.6%	10,500 人	15.4%	▲18.0%	27.1%	37.1%
増戸中学校区	9,606 人	11.7%	7,900 人	11.6%	▲17.8%	26.4%	38.0%
五日市中学校区	12,019 人	14.7%	9,000 人	13.2%	▲25.1%	31.3%	40.0%
合計・平均	81,874 人	100.0%	68,200 人	100.0%	▲17.2%	26.2%	37.8%

【図-38　全体人口及び各地区別人口の推移・推計（中学校区別）】



【図-39　中学校区別3区分人口の推計】

あきる野市	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	21,162人（25.9%）	24,100人（29.8%）	24,400人（30.8%）	24,300人（31.8%）	24,900人（33.9%）	25,700人（37.7%）
生産年齢人口	49,471人（60.4%）	47,000人（58.1%）	45,900人（58.0%）	43,900人（57.4%）	40,700人（55.4%）	35,200人（51.6%）
年少人口	11,241人（13.7%）	9,800人（12.1%）	8,800人（11.1%）	8,300人（10.8%）	7,900人（10.7%）	7,300人（10.7%）
合　計	81,874人	80,900人	79,100人	76,500人	73,500人	68,200人



秋多中学区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	3,785人（22.3%）	4,400人（25.9%）	4,500人（26.8%）	4,700人（28.7%）	5,100人（31.9%）	5,600人（37.1%）
生産年齢人口	10,564人（62.3%）	10,500人（61.8%）	10,400人（61.9%）	9,900人（60.4%）	9,100人（56.9%）	7,900人（52.3%）
年少人口	2,615人（15.4%）	2,100人（12.4%）	1,900人（11.3%）	1,800人（11.0%）	1,800人（11.3%）	1,600人（10.6%）
合　計	16,964人	17,000人	16,800人	16,400人	16,000人	15,100人

御堂中学区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	3,468人（27.1%）	3,700人（29.6%）	3,700人（30.3%）	3,600人（30.8%）	3,700人（33.0%）	3,900人（37.1%）
生産年齢人口	7,496人（58.5%）	7,100人（56.8%）	7,100人（58.2%）	6,800人（58.1%）	6,300人（56.3%）	5,400人（51.4%）
年少人口	1,847人（14.4%）	1,700人（13.6%）	1,400人（11.5%）	1,300人（11.1%）	1,200人（10.7%）	1,200人（11.4%）
合　計	12,811人	12,500人	12,200人	11,700人	11,200人	10,500人

五日市中学区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	3,759人（31.3%）	4,100人（35.7%）	4,100人（36.9%）	4,000人（37.7%）	3,900人（39.0%）	3,600人（40.0%）
生産年齢人口	6,960人（57.9%）	6,300人（54.8%）	5,900人（53.2%）	5,500人（51.9%）	5,100人（51.0%）	4,500人（50.0%）
年少人口	1,300人（10.8%）	1,100人（9.6%）	1,100人（9.9%）	1,100人（10.4%）	1,000人（10.0%）	900人（10.0%）
合　計	12,019人	11,500人	11,100人	10,600人	10,000人	9,000人

増戸中学区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	2,540人（26.4%）	2,900人（30.5%）	2,900人（31.5%）	2,800人（31.5%）	2,900人（34.1%）	3,000人（38.0%）
生産年齢人口	5,775人（60.1%）	5,400人（56.8%）	5,200人（56.5%）	5,100人（57.3%）	4,700人（55.3%）	4,100人（51.9%）
年少人口	1,291人（13.4%）	1,200人（12.6%）	1,100人（12.0%）	1,000人（11.2%）	900人（10.6%）	800人（10.1%）
合　計	9,606人	9,500人	9,200人	8,900人	8,500人	7,900人

西中学区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	2,802人（25.1%）	3,300人（29.7%）	3,400人（31.2%）	3,400人（32.1%）	3,400人（33.3%）	3500人（36.8%）
生産年齢人口	6,859人（61.4%）	6,500人（58.6%）	6,300人（57.8%）	6,100人（57.5%）	5,700人（55.9%）	4,900人（51.6%）
年少人口	1,508人（13.5%）	1,300人（11.7%）	1,200人（11.0%）	1,100人（10.4%）	1,100人（10.8%）	1,100人（11.6%）
合　計	11,169人	11,100人	10,900人	10,600人	10,200人	9,500人

東中学区	H25年	H32年	H37年	H42年	H47年	H55年
老年人口	4,809人（24.9%）	5,700人（29.5%）	5,800人（30.7%）	5,800人（31.7%）	5,900人（33.5%）	6,100人（37.7%）
生産年齢人口	11,816人（61.2%）	11,200人（58.0%）	11,000人（58.2%）	10,500人（57.4%）	9,800人（55.7%）	8,400人（51.9%）
年少人口	2,680人（13.9%）	2,400人（12.5%）	2,100人（11.1%）	2,000人（10.9%）	1,900人（10.8%）	1,700人（10.5%）
合　計	19,305人	19,300人	18,900人	18,300人	17,600人	16,200人

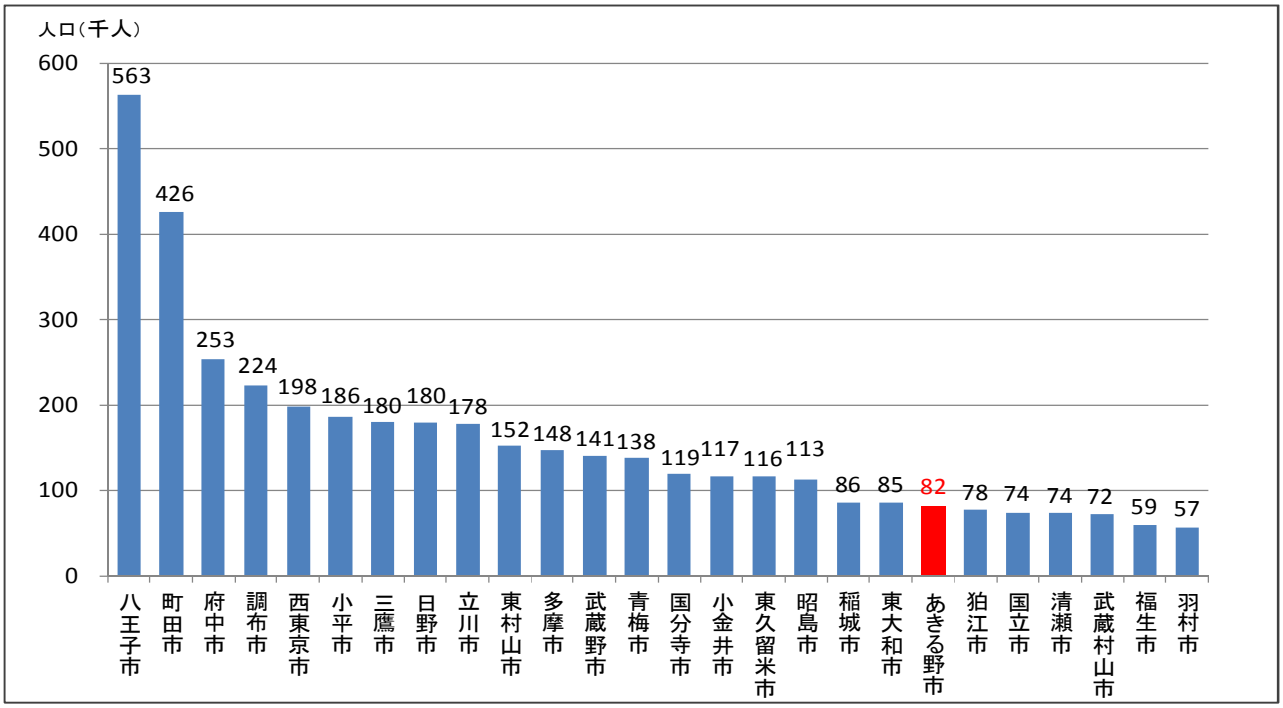
道路凡例
- 首都圏中央連絡自動車道（緊急輸送道路）
- 国道（緊急輸送道路）
- 都道（緊急輸送道路）
- 都道

-参考-　多摩地域の人口の状況

（１）多摩２６市の人口

本市の人口は、８.２万人となっており、多摩２６市の中で２０番目の規模となっています。

【図-40　多摩地域２６市の人口比較】

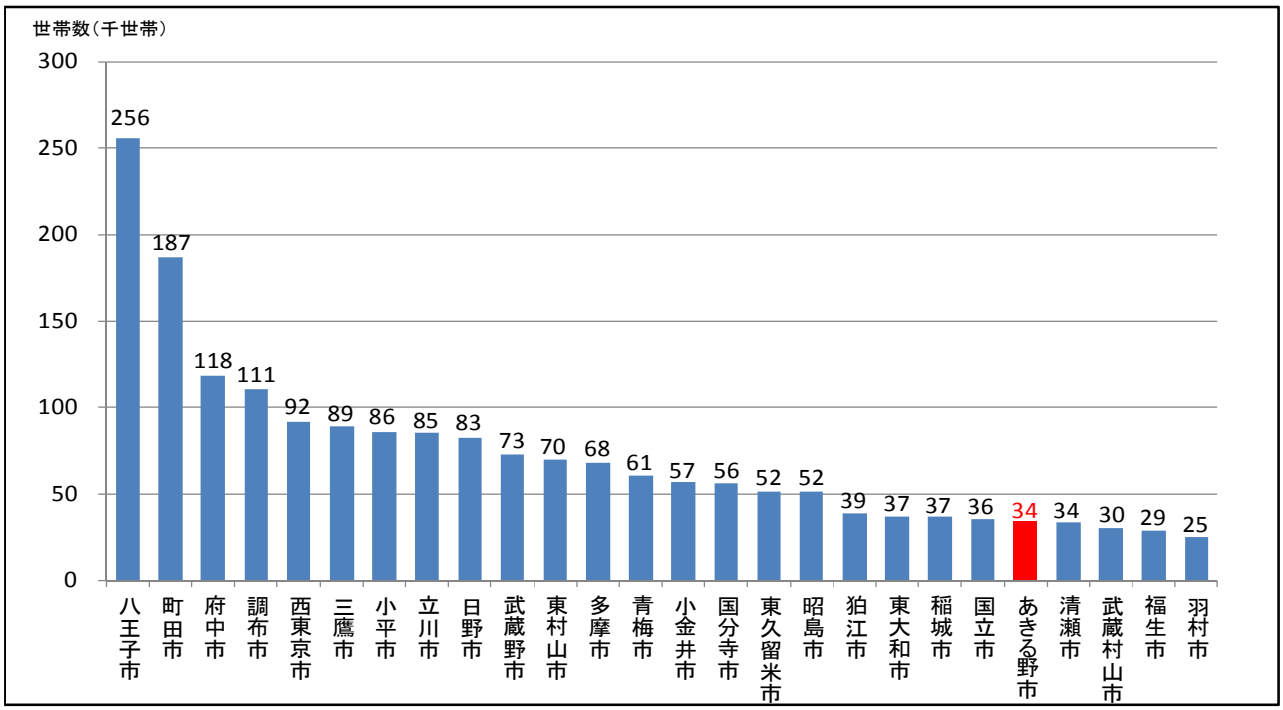


資料：東京都統計局「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（平成26年1月1日現在）」

（２）多摩２６市の世帯数

本市の世帯数は、３.４万世帯となっており、多摩２６市の中で２２番目の規模となっています。

【図-41　多摩地域26市の世帯数比較】

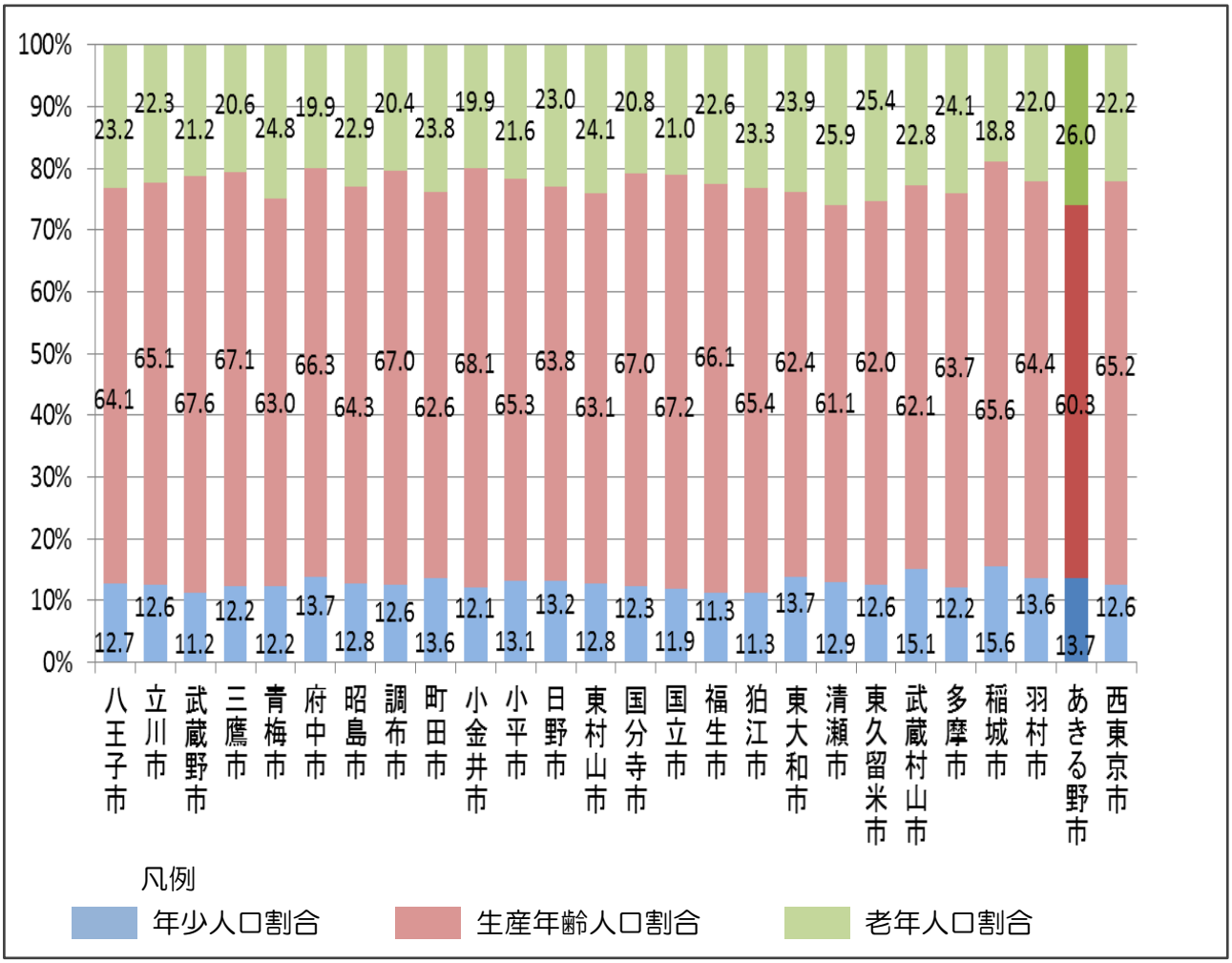


資料：東京都統計局「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（平成26年1月1日現在）」

（３）多摩２６市の３区分人口

本市の３区分人口は、多摩２６市において、老年人口の割合が２６.０％と最も高く、生産年齢人口の割合が６０.３％と最も低くなっており、高齢化が最も進行しています。

【図-42　多摩地域２６市の３区分人口の構成比】



資料：東京都総務局「東京都の統計」（平成26年1月1日現在）